千葉県八千代市

殿内遺跡 e 地点

― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

２０１８

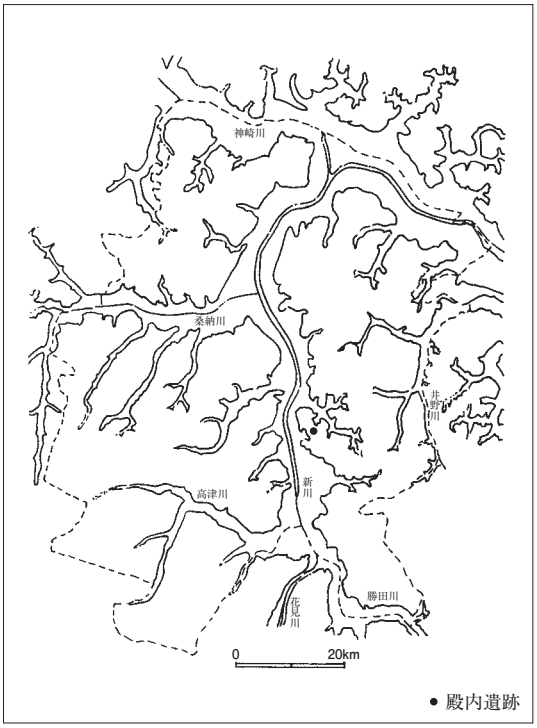
株式会社レスパイトサービス

八 千 代 市 教 育 委 員 会

千葉県八千代市

殿内（とのうち）遺跡ｅ地点

― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―



２０１８

株式会社レスパイトサービス

八 千 代 市 教 育 委 員 会

凡　　例

1　本書は，八千代市村上字殿ノ内1579番10他に所在する殿内遺跡ｅ地点の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は，確認調査を国庫・県費補助事業として，本調査については，民間開発等埋蔵文化財調査事業として，事業者より調査協力金を納付いただき，八千代市教育委員会の委託事業として実施した。

3　発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。

調査

確認調査　期間　平成28年10月５日～10月14日　面積　76㎡/706.57㎡　担当　森　竜哉

第１次本調査　期間　平成29年２月20日～３月29日　面積370㎡　担当　森　竜哉

第２次本調査　期間　平成29年４月25日～７月７日　面積337㎡　担当　森　竜哉

調査補助員　板橋三郎・伊藤衣莉加・井上三郎・内田紀子・桐原誠・窪坂雄志・鈴木一代
髙木秀夫・鳥羽良子・萩原雄一・橋本喜正・長谷川恵理子・原田雪子・蛭間裕子
室中勝典・森田耕平・山本みつ江・林和也・鈴木宏和

整理

図版作成・執筆　期間　平成29年９月13日～平成29年12月28日　担当　森　竜哉

整理補助員　伊藤衣莉加・内田紀子・桐原誠・小弓場直子・長谷川恵理子・八幡奈緒子・林和也
山田俊二・玉井庸弘

4　本書の編集は森が，執筆は，玉井が第２章第１・第２節と第３章第１・第２節を，それ以外を森がおこなった。

5　現場の遺構，遺物及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。

6　本書の作成・刊行については，整理補助員と森が協力して行い，森が統括した。

7　出土遺物，実測図等の資料は，八千代市教育委員会が保管している。

8　本書の遺構番号は，発掘調査時の番号を使用している。

9　遺構・遺物の縮尺は，下記のとおり統一しているが，位置図・全体図等は別記した。

［遺構］竪穴建物跡（Ｄ）1/60・同カマド1/30・溝（Ｍ）1/100ないし1/50・ピット（Ｐ）1/30

［遺物］旧石器剥片2/3・土器，石製品，鉄器等1/4

10　遺物実測図の中軸線サイドの空きは，復元実測を示す。

11　遺物実測図の実測番号脇の数字は，床面からの高さを表す。(cm)

12　遺構・遺物のスクリーントーンは下記のとおり統一した。

カマド火床部・赤彩　　カマド袖・須恵器・黒色処理

13　本書使用の地形図は下記のとおりである。

第１図　八千代市発行　1/10,000八千代都市計画基本図

第２図　八千代市発行　1/2,500八千代都市計画基本図

14　発掘調査から整理作業において下記の機関にご指導，ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略）

株式会社レスパイトサービス　千葉県教育庁文化財課

本　文　目　次

凡　　例

第１章　序説
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査の方法と経過…… 1
　第３節　周辺の遺跡…… 1

第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　旧石器時代…… 5
　第２節　縄文時代…… 5
　第３節　奈良・平安時代…… 6
　第４節　ピット・溝…… 29

第３章　まとめ
　第１節　旧石器時代…… 35
　第２節　縄文時代…… 35
　第３節　奈良・平安時代…… 35

挿　図　目　次

第１図　殿内遺跡周辺の遺跡…… 2
第２図　調査地点…… 3
第３図　殿内遺跡ｅ地点遺構配置図…… 4
第４図　旧石器時代出土遺物…… 5
第５図　10Ｐ遺構実測図・出土遺物…… 5
第６図　遺構外出土の縄文式土器…… 5
第７図　01Ｄ遺構実測図…… 7
第８図　01Ｄ出土遺物（１）…… 8
第９図　01Ｄ出土遺物（２）…… 9
第10図　01Ｄ出土遺物（３）……10
第11図　02Ｄ遺構実測図……11
第12図　02Ｄ出土遺物……12
第13図　03Ｄ遺構実測図・出土遺物……14
第14図　04Ｄ遺構実測図・出土遺物……15
第15図　05Ｄ遺構実測図……16
第16図　05Ｄ出土遺物……17
第17図　06Ｄ遺構実測図（１）……19
第18図　06Ｄ遺構実測図（２）……20
第19図　06Ｄ出土遺物……21
第20図　07Ｄ～10Ｄ土層断面図……22
第21図　07Ｄ・08Ｄ遺構実測図……23
第22図　09Ｄ遺構実測図……24
第23図　10Ｄ遺構実測図……24
第24図　07Ｄ～10Ｄ出土遺物……25
第25図　01Ｐ～06Ｐ遺構実測図……27
第26図　07Ｐ～12Ｐ遺構実測図……28
第27図　ピット出土遺物……29
第28図　01Ｍ遺構実測図……30
第29図　01Ｍ出土遺物……31
第30図　02Ｍ出土遺物……31
第31図　02Ｍ遺構実測図……32
第32図　03Ｍ・04Ｍ遺構実測図・出土遺物……34
第33図　05Ｍ遺構実測図・出土遺物……35

図　版　目　次

図版１　遺構［遺跡全景・01Ｄ・02Ｄ］
図版２　遺構［02Ｄ・03Ｄ・04Ｄ・05Ｄ］
図版３　遺構［05Ｄ・06Ｄ・07Ｄ・09Ｄ・01Ｍ］
図版４　遺構［02Ｍ・04Ｍ・05Ｍ・ピット］
図版５　遺物［旧石器・縄文・01Ｄ（1）］
図版６　遺物［01Ｄ（2）］
図版７　遺物［02Ｄ・03Ｄ］
図版８　遺物［04Ｄ・05Ｄ］
図版９　遺物［06Ｄ・07～10Ｄ（1）］
図版10　遺物［07～10Ｄ（2）・溝・ピット］

報告書抄録

第１章　序　　説

第１節　調査に至る経緯

詳細は市内遺跡発掘調査報告に譲るが，平成28年９月，株式会社レスパイトサービス代表取締役木内誠氏（以下事業者という）から，宅地造成を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は，市遺跡№203殿内遺跡の範囲内であり，遺物の散布が認められたことから，同年10月に確認調査を実施した。その結果，奈良平安時代竪穴建物跡８棟等が検出され，その後の協議により記録保存の措置をとることとなり，協定書・委託契約書の締結等諸準備が整った平成29年２月本調査に着手した。

第２節　調査の方法と経過

調査区は開発地全域であり，表土除去後の排土置き場の関係上，２回に分けて調査を実施した。第１回は２月20～３月29日で，２月20日～22日重機による表土剥ぎ，遺構プラン確定後，24日から竪穴建物跡等遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成を並行して行い，進捗状況を考慮しつつ，竪穴建物跡のカマド調査を行った。個別遺構調査終了後に全体写真撮影を行い調査を完了とした。第２回は，４月25日～７月７日の期間で，４月25日～５月２日第１回部分埋戻し後表土剥ぎを行った。重機による表土剥ぎ完了後，調査区清掃により遺構プランを確定し，９日から竪穴建物跡等遺構調査に移行した。第２回調査区の南東側においては，溝及び竪穴建物跡４棟の重複があり，遺構の切り合い関係や遺構床面等の把握について，慎重に調査を進めた。個別遺構調査終了後に全体写真撮影を行った。この間，進捗状況を考慮しながら，出土遺物の水洗・注記を進めた。北側の隣地家屋に接した細い進入路部分の調査については，南側部分の調査が完了後の６月20日に着手した。溝状遺構１条・ピット２基を検出し遺構調査を行い，７月３日完了した。埋戻しは５日～７日に行い現場での調査が全て完了した。なお確認調査の知見から，表土下に新期テフラ層及び暗褐色土が堆積しており，奈良平安時代の遺構は暗褐色土層上面で遺構プランの確定が可能であることから，暗褐色土中を確認面とした。また，同土層は縄文土器の包含層であることを考慮し，部分的にソフトロームまで下げて遺構の把握に努めた。

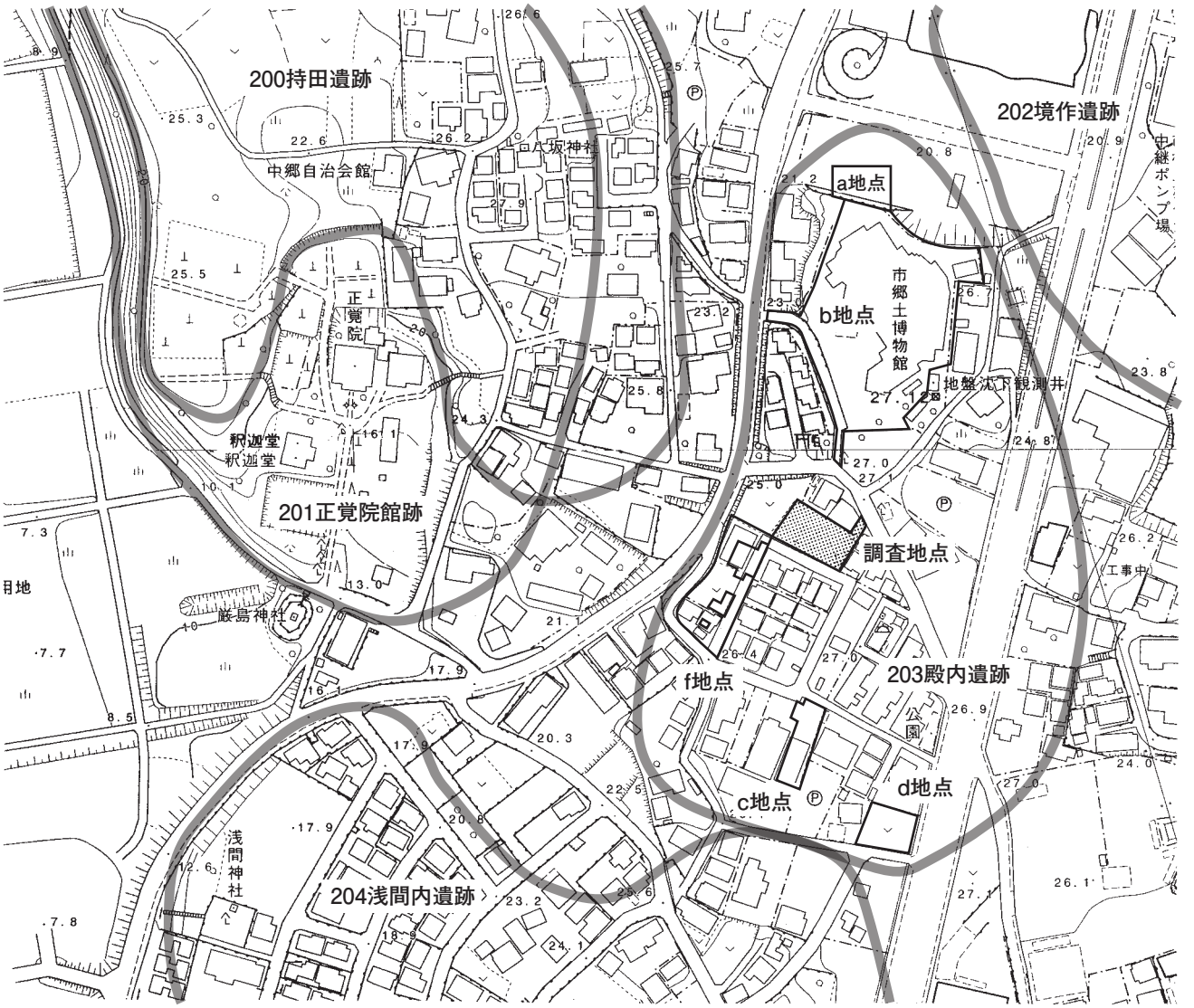
第３節　周辺の遺跡（第１図）

村上地区においては，**２**の村上宮内遺跡では縄文時代中後期の土器片・古墳時代前期竪穴建物跡群・奈良平安時代土師器須恵器が検出され，**３**の西山遺跡では古墳時代前期及び平安時代の竪穴建物跡各々３棟が調査により判明している。**４**の大塚遺跡・**５**の村上向原遺跡・**６**の大塚南遺跡では詳細は明確ではないが，弥生時代後期・奈良平安時代の遺構が検出されている。**７**の名主山遺跡では，弥生時代後期の竪穴建物跡１棟，平安時代の竪穴建物跡５棟・掘立柱建物跡６棟が調査されている。**８**の村上込ノ内遺跡では奈良・平安時代の竪穴建物跡155棟・掘立柱建物跡24棟を主体に旧石器時代，弥生時代後期の遺構・遺物が検出された。**９**の浅間下遺跡では試掘が実施されたが，遺構は検出されていない。**10**の持田遺跡においては，平成５年の調査で古墳時代後期の竪穴建物跡13棟等の成果がある。**11**の正覚院館跡では，４回の調査において中世鎌倉期から戦国期にかけての貿易陶磁・銅製花瓶等中世城館，寺院にかかる遺構・遺物が発見された。**12**の境作遺跡では，古墳時代後期及び奈良平安時代の竪穴建物跡13棟が調査され，**13**の浅間内遺跡・**14**の白筋遺跡では区画整理事業に先行した調査において，奈良平安時代の竪穴建物跡68棟・掘立柱建物跡６棟を主体に旧石器～古墳時代にかかる遺構・遺物が発見された。

15の根上神社古墳は全長50ｍ市内最大の前方後円墳で周溝部分の調査が実施された。６世紀代の築造と想定される。［参考文献は裏表紙前に掲載］

1　殿内遺跡	2　村上宮内遺跡	3　西山遺跡	4　大塚遺跡
5　村上向原遺跡	6　大塚南遺跡	7　名主山遺跡	8　村上込ノ内遺跡
9　浅間下遺跡	10　持田遺跡	11　正覚院館跡	12　境作遺跡
13　浅間内遺跡	14　白筋遺跡	15　根上神社古墳	

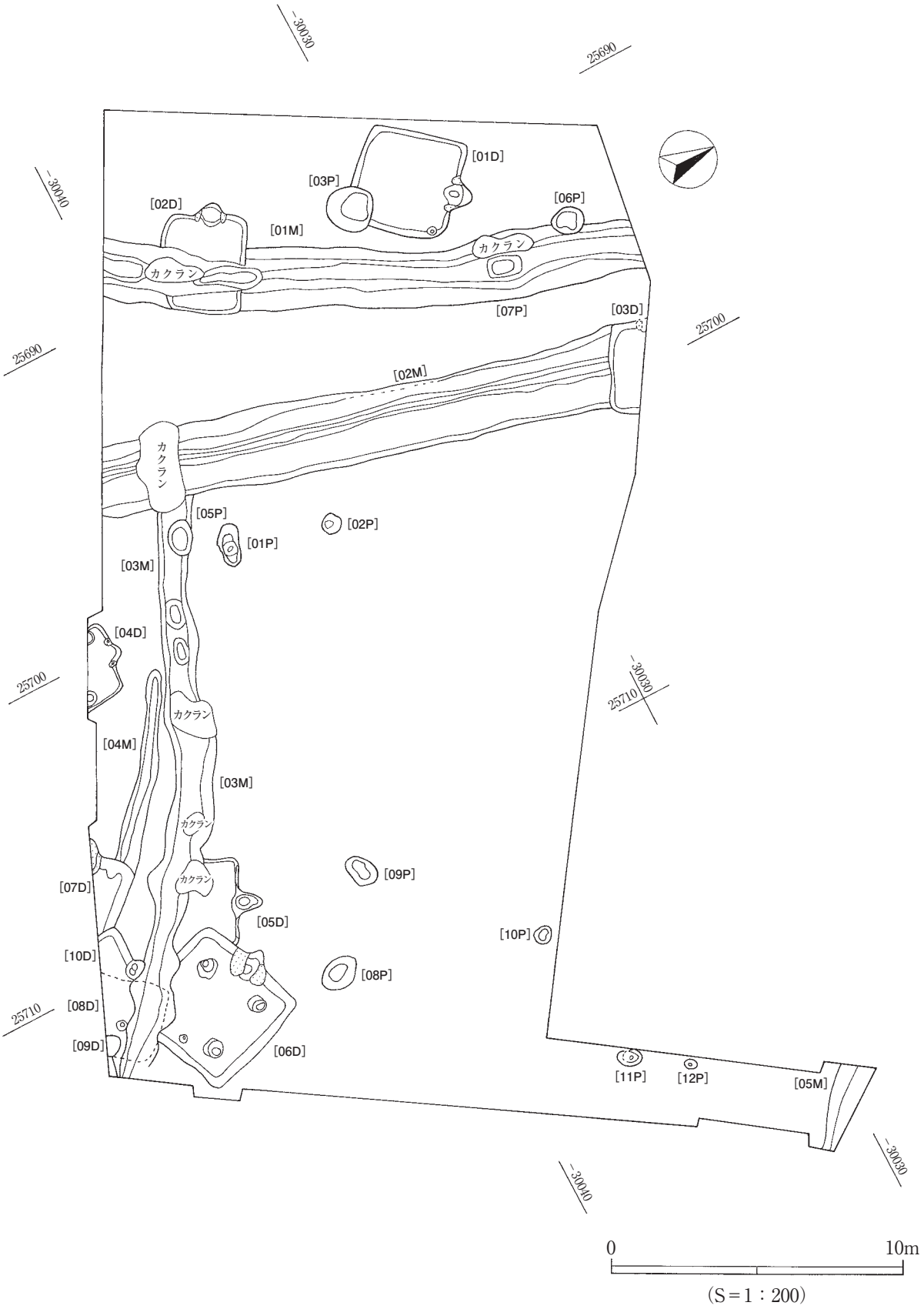
第１図　殿内遺跡周辺の遺跡



第２図　調査地点

殿内遺跡各地点の概要

地点	調査面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査期間	備　考
a	800	奈良時代竪穴建物１棟	奈良時代須恵器坏・土師器甕	ｓ60年11月13日～ｓ61年１月13日［境作遺跡調査含む］	市遺跡調査会・本調査
b	5,350	弥生時代方形周溝墓１基，古墳時代前期竪穴建物１棟，奈良平安時代竪穴建物36棟・掘立建物１棟・ピット40基，近世墓坑５基	槍先形尖頭器，縄文時代早期．中期土器・石鏃・土器片錘，古墳時代前期土師器，奈良平安時代土師器・須恵器・畿内産土師器・緑釉陶器・鉄製品・青銅製帯金具，近世煙管・銭貨	［第１次本調査］ｈ２年10月22日～ｈ３年７月11日 ［第２次本調査］ｈ４年６月19日～９月10日	市教育委員会・本調査
c	64.3/499.95	奈良平安時代竪穴建物７棟・掘立柱建物２棟・土坑９基	奈良平安時代土師器・須恵器，近世陶磁器・寛永通宝	ｈ17年11月17日	市教育委員会・確認調査
d	48/456	古墳時代竪穴建物１棟，奈良平安時代竪穴建物１棟・土坑２基	古墳時代土師器，奈良平安時代土師器・須恵器	ｈ26年７月４日～７月10日	市教育委員会・確認調査



第３図　殿内遺跡ｅ地点遺構配置図

第２章　検出された遺構と遺物

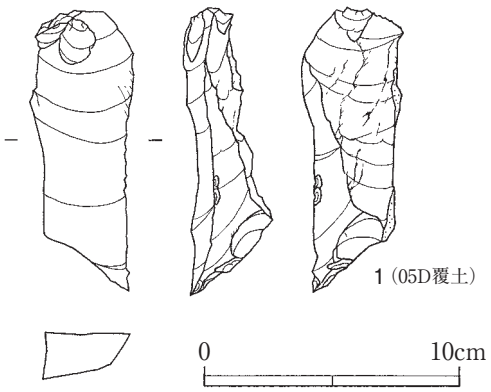
第１節　旧石器時代

今回の野外調査では，下層調査を行っていない。しかし，整理作業による出土遺物の分類・接合の過程で，旧石器時代の遺物１点を抽出したため，以下に報告する。なお、石材鑑定は行っていないため，石材は報告者の判断によることを，予めお断りしておく。

石器（第４図・図版５）

１は剥片。石刃技法により剥取された縦長剥片。自然面が残る。石材は頁岩か。

最大長5.5cm，最大幅2.1cm，最大厚1.6cm，重量13.0g。



第４図　旧石器時代出土遺物

第２節　縄文時代

今回の野外調査で，縄文時代後期（堀之内１式期）の土坑１基を検出した。また，整理作業による出土遺物の分類・接合の過程で，縄文時代中期の土器片を抽出したため，併せて以下に報告する。

１０Ｐ（第５図・図版４）

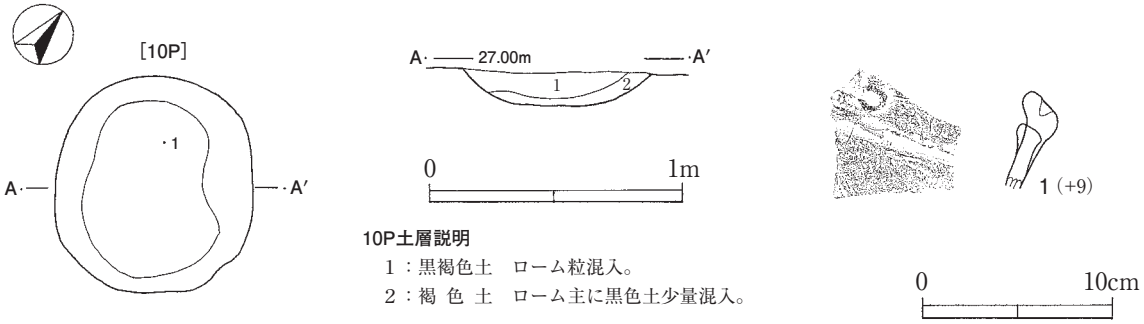
位置：中央北側（単独検出）　**規模・平面形**：0.85m×0.78m×0.2mの円形　**壁**：緩やかに立ち上がる

底面：凹凸なし　**覆土**：２層に分層（自然堆積）　**遺物**：覆土上層より縄文後期土器１片出土

所見：出土遺物および覆土の状況から，堀之内１式期の土坑と判断した。用途不明（特定痕跡なし）。

出土遺物（第５図・図版５）

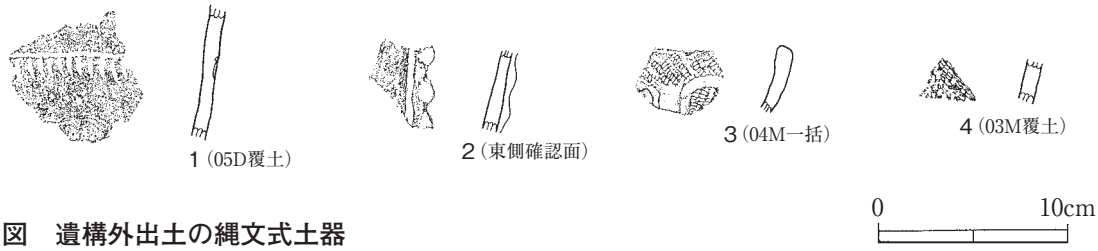
１は堀之内１式の口縁部片（波頂部付近）。口唇上に押圧刺突文＋幅広な口縁部無文帯。



第５図　10P遺構実測図・出土遺物

遺構外出土の縄文式土器（第６図・図版５）

１～２は阿玉台Ｉb式（雲母混入型）の胴部片。１は輪積み上に爪形文を施文後，沈線を施す。２は押圧隆帯（懸垂文）を貼付。３は加曽利EⅢ式（新段階）（注：２章第２節参考文献）。口縁部縄文帯＋逆Ｕ字状懸垂文＋地文単節縄文RL。４は加曽利Ｅ式か。節の細かい複節縄文RLR。



第６図　遺構外出土の縄文式土器

第３節　奈良・平安時代

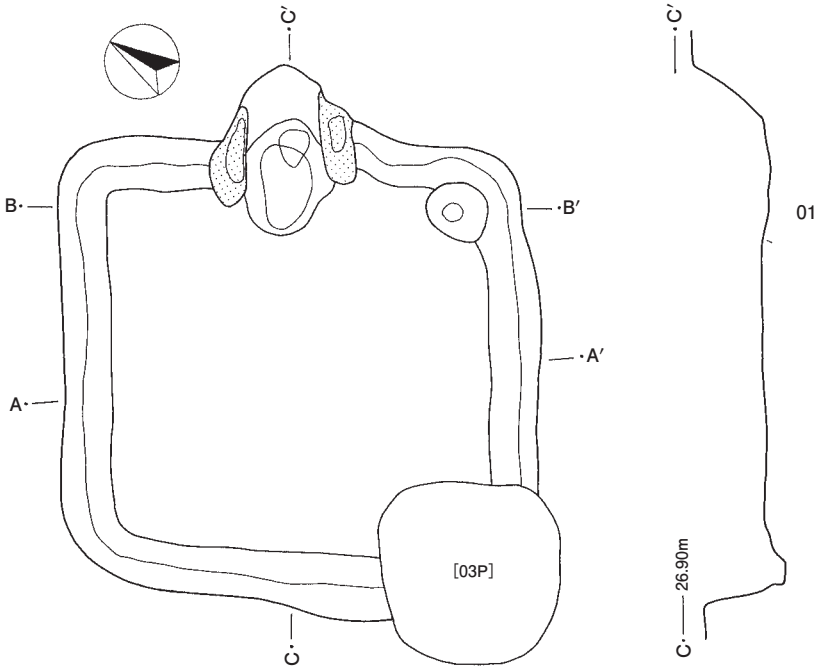
今回の調査においては，８世紀前半～10世紀前半の竪穴建物跡10棟，ピット８基を検出した。なお，ピット・溝については，第４節として扱った。以下報告する。

０１Ｄ（第７～10図・図版１.５.６）

位置：調査区西隅。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-56°-Eで東に振れている。**重複関係**：03Pに切られる。**規模・平面形**：3.8m×3.5m×深さ0.6mの方形　**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを20㎝掘り込み地床とする。**周溝**：全周し，カマド袖脇で立ち上がる。幅22～24㎝で深さ５～10㎝。覆土はロームブロック混じりの暗褐色土でやや軟質。**カマド**：北壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部は浅い掘り込みで，煙道立ち上がり手前に火床部があり，強く焼けている。煙道立ち上がりは火床部奥から角度をもって立ち上がっている。カマド位置は周溝が袖下まで掘り込まれず住居構築時から決められていた。袖部の構築はハードロームを土台とし，粘質粘土を核として砂質粘土により積み上げている。**ピット**：カマド脇右コーナーに50㎝の円形で深さ22㎝のP1のみ。**覆土**：６層に分層。1.2層は廃棄時の埋戻し土である。**遺物出土状態**：トータルステーションで511点出土しているが，覆土中からの出土が主体。カマド内，覆土中の遺物に時間差は見られず，廃棄遺物として扱う。また，覆土中位から打ち欠き土器9.10が出土している。

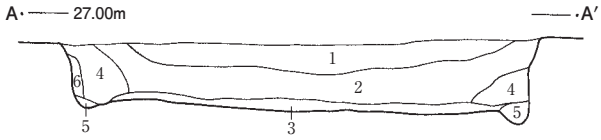
01D遺物観察表（１）

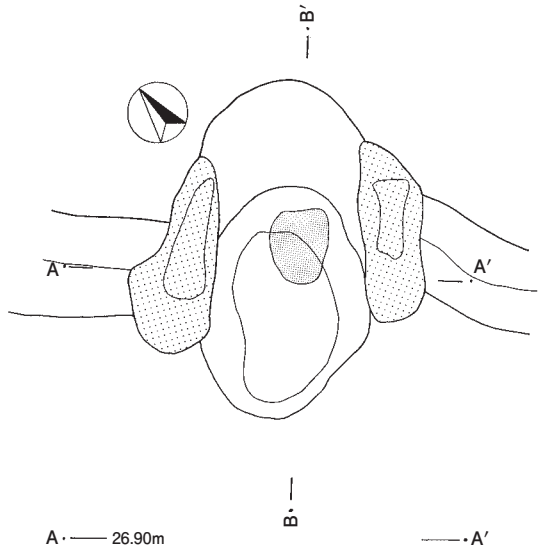
	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	完形	3.4	12.0	6.2	橙褐色 一部黒斑	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁及び 体部下端回転ヘラ削り。
2	土師器 坏	口縁部～底部1/4	3.6	12.0	6.2	橙褐色	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。底部回転ヘラ切り離し後体部下端 回転ヘラ削り。
4	土師器 坏	口縁部～底部1/3	4.3	14.6	7.4	淡橙褐色	雲母，長石	ロクロ成形。体部下端回転ヘラ削り。 内面粗いヘラ磨き。
3	土師器 坏	口縁部～底部1/3 底部全周	3.6	12.4	6.0	外淡橙褐色 内淡橙褐色	雲母，長石 石英	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部下端回転ヘラ削り。底部外面に「㊥」の墨書。
5	土師器 坏	底部2/3	1.7	-	6.0	橙褐色	雲母	底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。
6	土師器 坏	完形	4.6	14.2	6.6	外淡橙褐色 内黒色	雲母，白色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁及び体部下端 回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。黒色処理。
7	土師器 埦	口縁部～底部1/4	5.8	15.5	7.0	橙褐色	長石，赤色粒 小石粒	ロクロ成形。底部回転ヘラ切り離し後体部下端 回転ヘラ削り。ロクロなで。
8	土師器 高台付埦	口縁部～底部1/4	4.5	14.7	7.8	黒茶褐色	長石	ロクロ成形。底部回転切り離し後高台部貼り付け。 内面黒色処理後ヘラ磨き。
9	土師器 皿	口縁部～底部2/3	2.0	13.0	6.8	淡橙褐色	雲母，長石	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後高台部貼り付け。 内面横位ヘラ磨き。
10	土師器 皿	口縁部～底部2/3	2.3	14.2	5.6	茶褐色	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。底部手持ちヘラ削り。体部下端回転 ヘラ削り。内面中央にヘラ書。2ヶ所打ち欠き。
11	土師器 蓋	口縁部～底部2/3	2.6	14.6	6.2	茶褐色	雲母，白色粒 黒色粒	ロクロ成形。外面天井部，体部回転ヘラ削り。
12	土師器 甕	口縁部～胴部2/3	9.8	18.8	-	暗茶褐色	雲母，長石 赤色粒	胴部外面縦位ヘラ削り。口縁部横なで。 内面ヘラなで。
13	土師器 甕	胴部～底部1/4	11.7	-	-	外暗茶褐色 内淡褐色	雲母，石英	胴部外面縦位ヘラ削り。底部木葉痕。 使用痕，カマドの粘土付着。常陸型。
14	土師器 小型甕	口縁部～底部2/3	9.0	12.4	6.2	茶褐色	雲母，赤色粒	ロクロ成形。胴部外面ロクロなで。胴部下半縦位 ヘラ削り。口辺部横なで。内面ヘラなで。
15	須恵器 甕	胴部 ～底部全周1/4	6.4	-	6.2	外暗赤褐色 内暗茶褐色	雲母，白色粒	ロクロ成形。胴部外面，底部手持ちヘラ削り。 内面ロクロなで。
16	土師器 甕	口縁部1/3	10.3	21.0	-	茶褐色	長石，赤色粒 小石粒	胴部外面縦位ヘラ削り。口縁部横なで。 内面木口状工具によるなで。
17	須恵器 甕	口縁部～胴部1/5	15.8	-	-	赤茶褐色	雲母，白色粒	胴部外面縦位平行叩き目。胴部下半横位ヘラ削り。 内面ヘラなで，なで。
18	須恵器 甕	口縁部～胴部1/5	6.4	-	6.2	外暗赤褐色 内暗茶褐色	雲母，白色粒	胴部外面縦位平行叩き目。口縁部横なで。 内面なで。
19	須恵器 甕	口縁部～胴部1/5	7.8	28.0	-	茶褐色	雲母，長石 小石粒	ロクロ成形。
20	須恵器 甕	胴部～底部1/3	25.2	-	8.2	灰色～淡橙灰色	雲母，白色粒	胴部外面上部縦位平行叩き目，外面下部縦位 ヘラ削り。内面上部当て具及びなで。内面下部ヘラなで。
21	須恵器 甕	胴部～底部1/4	9.1	-	16.6	外暗茶褐色 内茶褐色	雲母，長石 石英	胴部外面横，斜位ヘラ削り。内面なで。
22	須恵器	胴部～底部1/3	5.5	-	15.5	外黒灰色	長石	ロクロ成形。胴部外面横，斜位ヘラ削り。
	甕					内暗褐色		内面ヘラなで。
23	須恵器 甕	胴部～底部2/3	10.8	-	14.3	茶褐色	雲母，長石	胴部外面上部縦位平行叩き目，外面下部横位 ヘラ削り。内面指頭圧痕，ヘラなで。
24	須恵器 甑	底部1/5	7.6	-	-	外黒灰色 内暗褐色	雲母，赤色粒 黒色粒	ロクロ成形。胴部外面斜位平行叩き目後，下端横位 ヘラ削り。内面ヘラなで。五孔式の甑。
25	土師器 坏	口縁部	-	-	-	淡茶褐色	長石，赤色粒 黒色粒	外面に不明墨書。

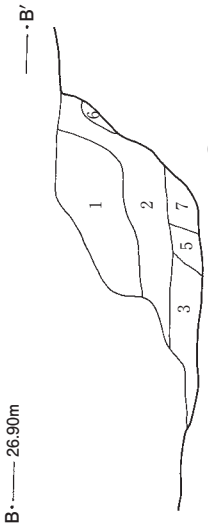


01D土層説明

1：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。2～3mm大ローム粒混入。ややぼそぼそ。
2：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。1層類似。焼土粒混入。ややぼそぼそ。
3：明褐色土　ローム主に暗褐色土混入。
4：暗褐色土　黒色土主にローム粒混入。3～5mm大ローム粒混入。
5：明褐色土　ロームブロック、暗褐色土混合層。
6：明褐色土　ローム粒に暗褐色土混入。3より粒子細かい。

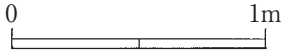




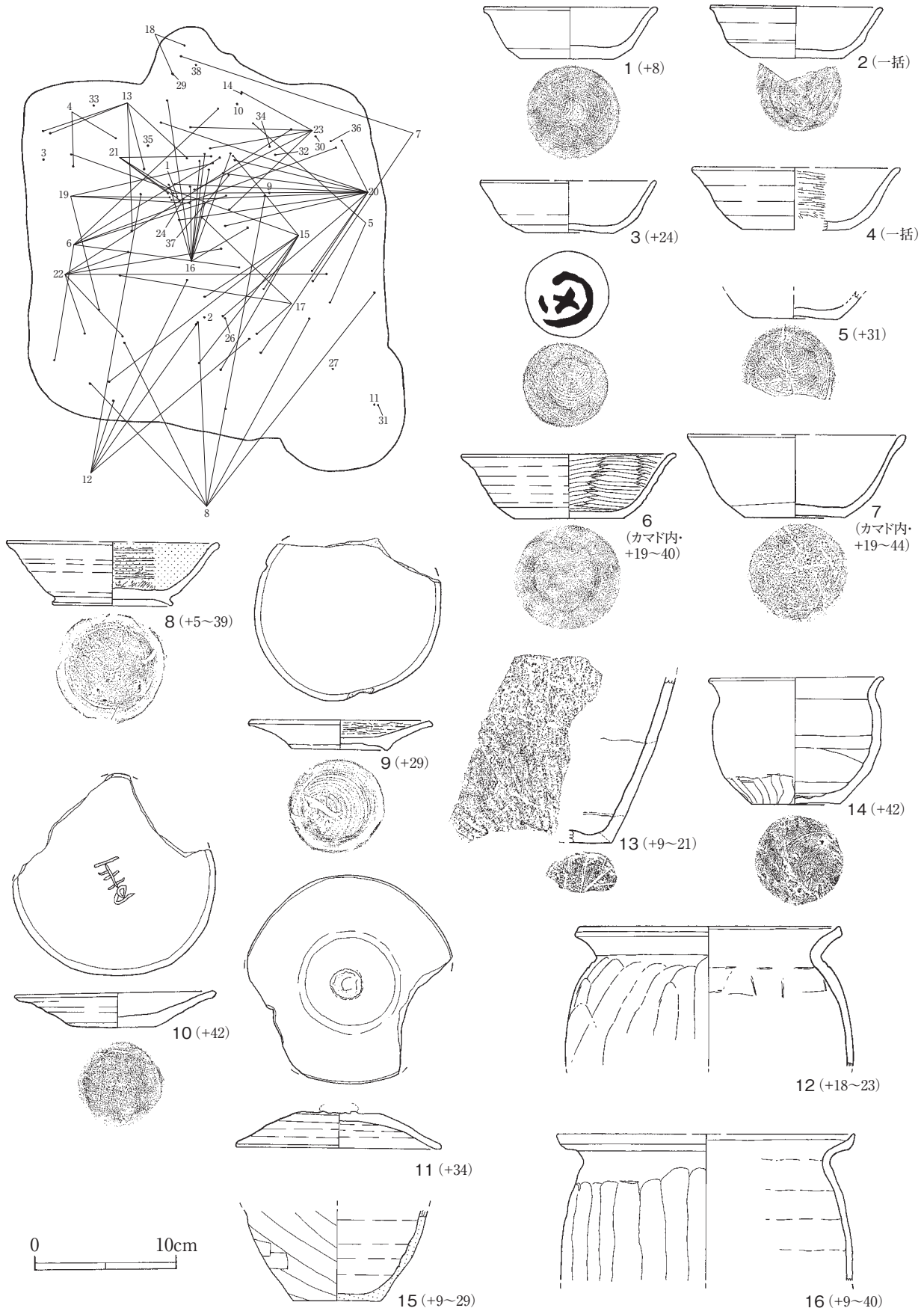


01Dカマド土層説明

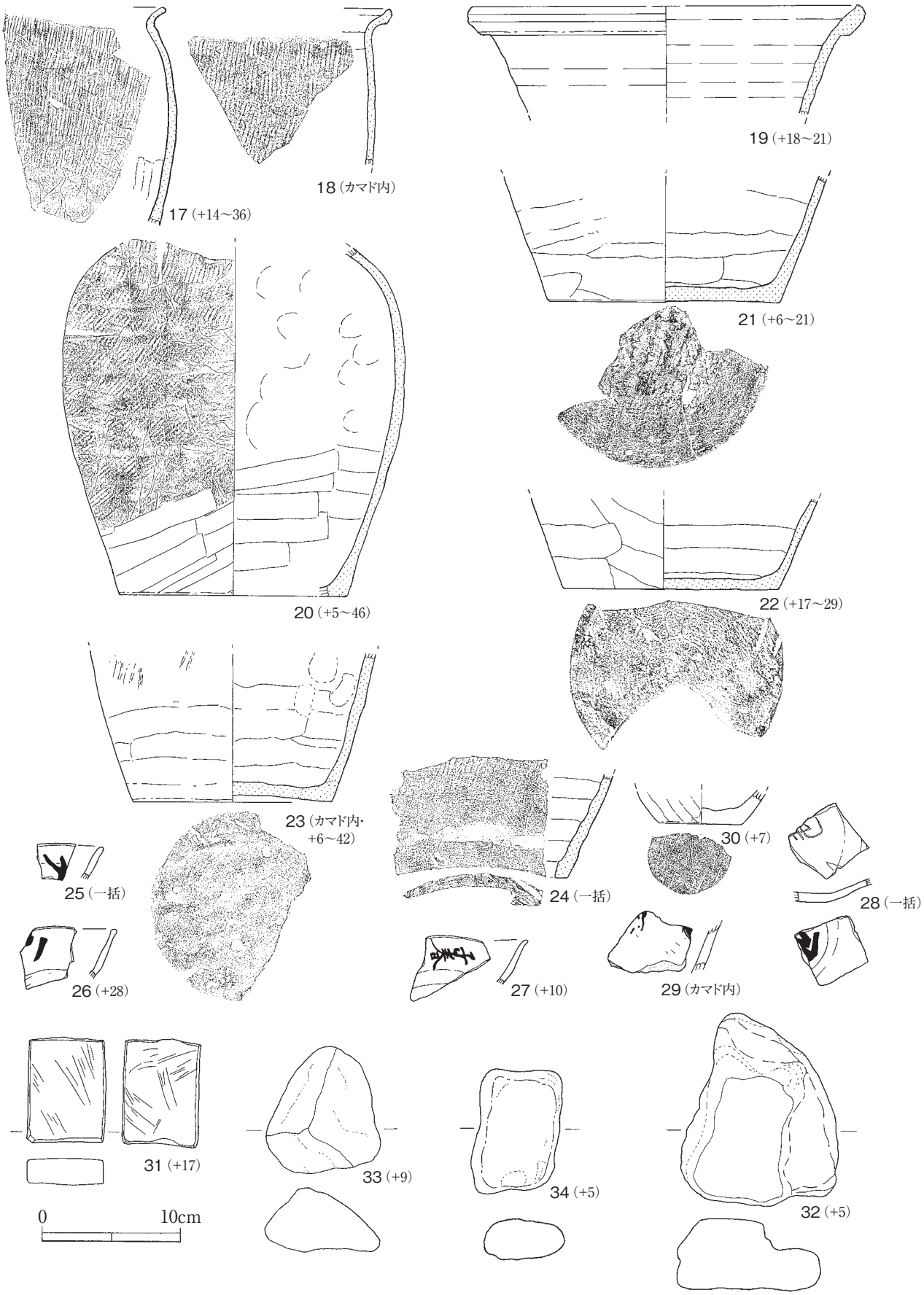
1：茶灰褐色土　砂質灰色砂と暗褐色土。焼土粒少量含む。
2：茶灰褐色土　1層類似。暗褐色土多い。
3：赤 褐 色 土　灰色砂含む。焼土粒・焼土ブロック混入。
4：灰 褐 色 土　灰色砂を主に、暗褐色土少量含む。
5：橙 赤 色 土　白色砂、焼土粒混合。
6：暗 褐 色 土　2層類似。焼土粒含まず。
7：茶灰褐色土　灰色砂、焼土粒混合。



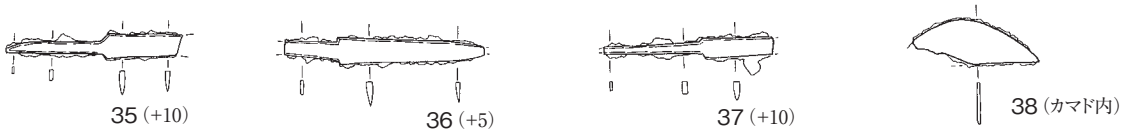
第７図　01Ｄ遺構実測図



第８図　01Ｄ出土遺物（１）



第９図　01Ｄ出土遺物（２）



第10図　01Ｄ出土遺物（３）

01D遺物観察表（２）

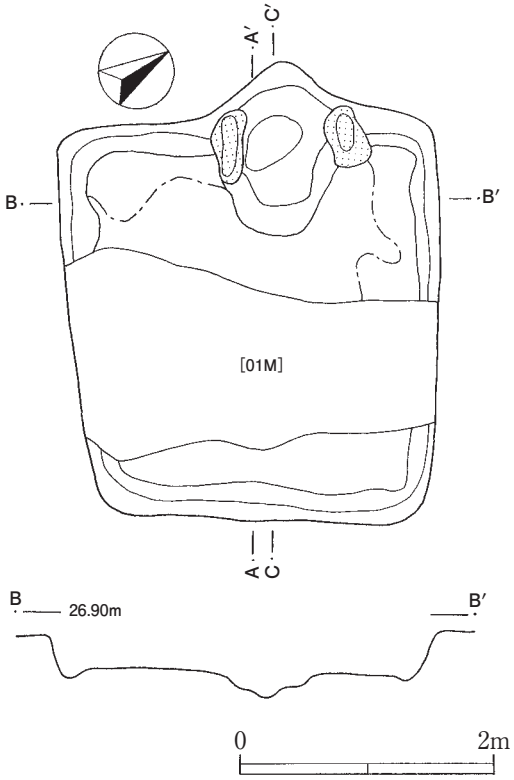
26	土師器 坏	口縁部	-	-	-	茶褐色	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。外面に不明墨書。体部外面下端 回転ヘラ削り。
27	土師器 坏	口縁部	-	-	-	淡橙褐色	長石，石英	ロクロ成形。体部外面横位「子春」墨書。体部外面 下端回転ヘラ削り。
28	土師器 皿	体部	-	-	-	茶褐色	長石，赤色粒	底部外面不明墨書。底部内面ヘラ書き。
29	土師器 甕	体部	-	-	-	淡橙褐色	長石，石英	外面に不明墨書。
30	土師器 甕	底部1/2	2.5	-	6.0	茶褐色	長石，赤色粒	胴部外面下端斜位ヘラ削り。底部外面ヘラ削り 「×」ヘラ書き。
31	砥石		全長 7.6	幅 5.6	厚さ 1.9	重さ 115.8g		四面に使用痕。
32	雲母片岩	完形	全長 13.7	幅 11.2	厚さ 3.1～5.0	重さ 1025g		
33	雲母片岩	完形	全長 8.9	幅 8.8	厚さ 4.6	重さ 334.2g		
34	雲母片岩	完形	全長 8.6	幅 5.9	厚さ 2.9	重さ 304.4g		
35	鉄器 刀子	柄～刃部 刃部先端欠損	長 9.3	幅 1.4	厚 峰部 0.25	重さ 11.9g		
36	鉄器 刀子	柄～刃部 柄部端欠損	長 10.7	幅 1.4	厚 峰部 0.35	重さ 17.7g		
37	鉄器 刀子	柄～刃部 刃部先端欠損	長 9.1	幅 1.0	厚 峰部 0.3	重さ 9.4g		
38	鉄器 不明		長 6.8	幅 2.2	厚さ 0.18	重さ 8.1g		

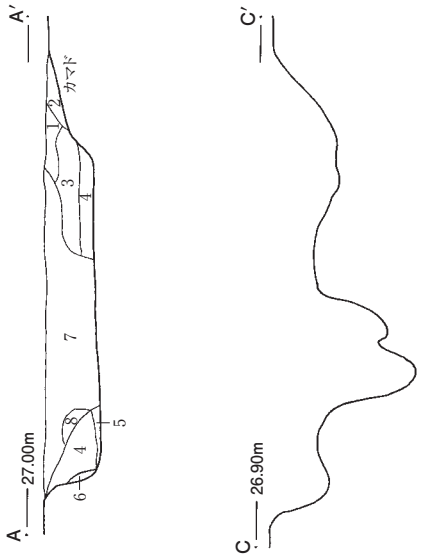
０２Ｄ（第１１.１２図・図版１.２.７）

位置：調査区西隅。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-56°-Wで西に振れている。**重複関係**：01Mに切られる。**規模・平面形**：3.1m×3.0m×深さ0.4mの方形　**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを10～12㎝掘り込んで，貼り床とする。カマド焚口前に硬化面が遺存する。**周溝**：全周し，カマド袖下まで掘り込む。幅20㎝で深さ10㎝。**カマド**：西壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部はやや深い掘り込みで15㎝程度である。煙道立ち上がり手前に火床部があり，強く焼けている。煙道立ち上がりは火床部奥から角度をもって立ち上がっている。袖部の構築はハードロームを土台とし，粘質粘土を核として砂質粘土により積み上げている。**覆土**：６層に分層。3.4層は廃棄時の埋戻し土である。**遺物出土状態**：トータルステーションで166点出土している。覆土中からの出土が主体であるが，カマド内，覆土中の遺物に時間差は見られず，廃棄遺物として扱う。カマド脇に正位で打ち欠きされた２が出土している。

02D遺物観察表（１）

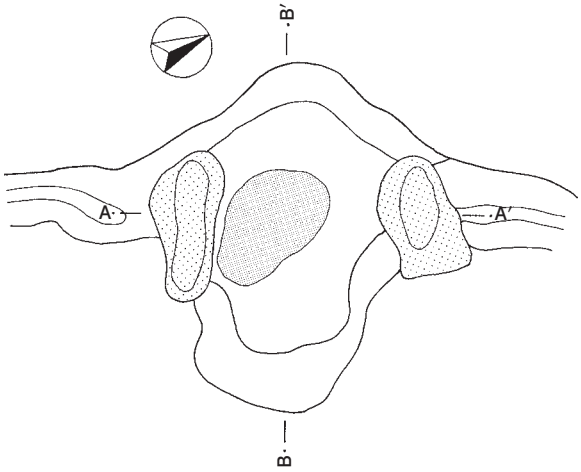
	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	完形	4.0	11.8	6.2	淡茶褐色 一部黒斑	長石，赤色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。
2	土師器 坏	完形 口縁部打ち欠き	4.15	11.8	6.3	淡橙褐色	雲母，砂粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁及び体部 下端回転ヘラ削り調整。底部外面に「王」墨書。 U字状打ち欠き。
3	土師器 坏	口縁部～底部2/3	4.3	12.7	6.8	茶褐色	白色粒，小石粒	ロクロ成形。切り離し不明。4方向の底部手持ち ヘラ削り。体部下端回転ヘラ削り。
4	土師器 坏	口縁部～底部3/4	3.2	11.8	6.1	淡橙褐色	長石，石英 赤色粒	ロクロ成形。体部下端回転ヘラ削り。 底部外面に「王」墨書。
5	土師器 埦	口縁部～底部1/4	4.3	15.0	8.1	外淡茶褐色 内黒褐色	赤色粒，小石粒	ロクロ成形。体部外面下端回転ヘラ削り。 内面体部から底部ヘラ磨き後，炭素吸着による 黒色処理。
6	土師器 甕	口縁部～胴部1/3	7.2	21.0	-	橙褐色 一部黒斑	長石，砂粒	口縁部横なで。胴部外面なで。胴部内面横位 ヘラなで。常陸型。
7	土師器 甕	口縁部～胴部1/2	3.8	11.0	-	外橙褐色 内黒灰色（煤付着）	長石，砂粒	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面なで。
8	土師器 甕	口縁部～胴部1/8	-	-	-	暗茶褐色	石英，赤色粒 白色粒	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面ヘラなで。武蔵型。

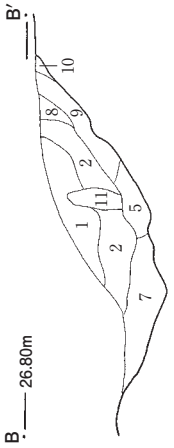




02D土層説明

1：明褐色土　焼土粒、1～2mm大ローム粒混入。
2：明褐色土　焼土粒、灰色砂混入。
3：明褐色土　焼土粒少量。ローム粒の混入が1層より多い。
4：明褐色土　3層類似。焼土粒やや多い。
5：褐 色 土　ローム粒主体。暗褐色土混入。
6：褐 色 土　ローム粒主体。
7：暗褐色土　1～2cm大ロームブロック、2～3mm大ローム粒混入。01M覆土。
8：暗褐色土　ローム粒、黒色土混合層。01M覆土。

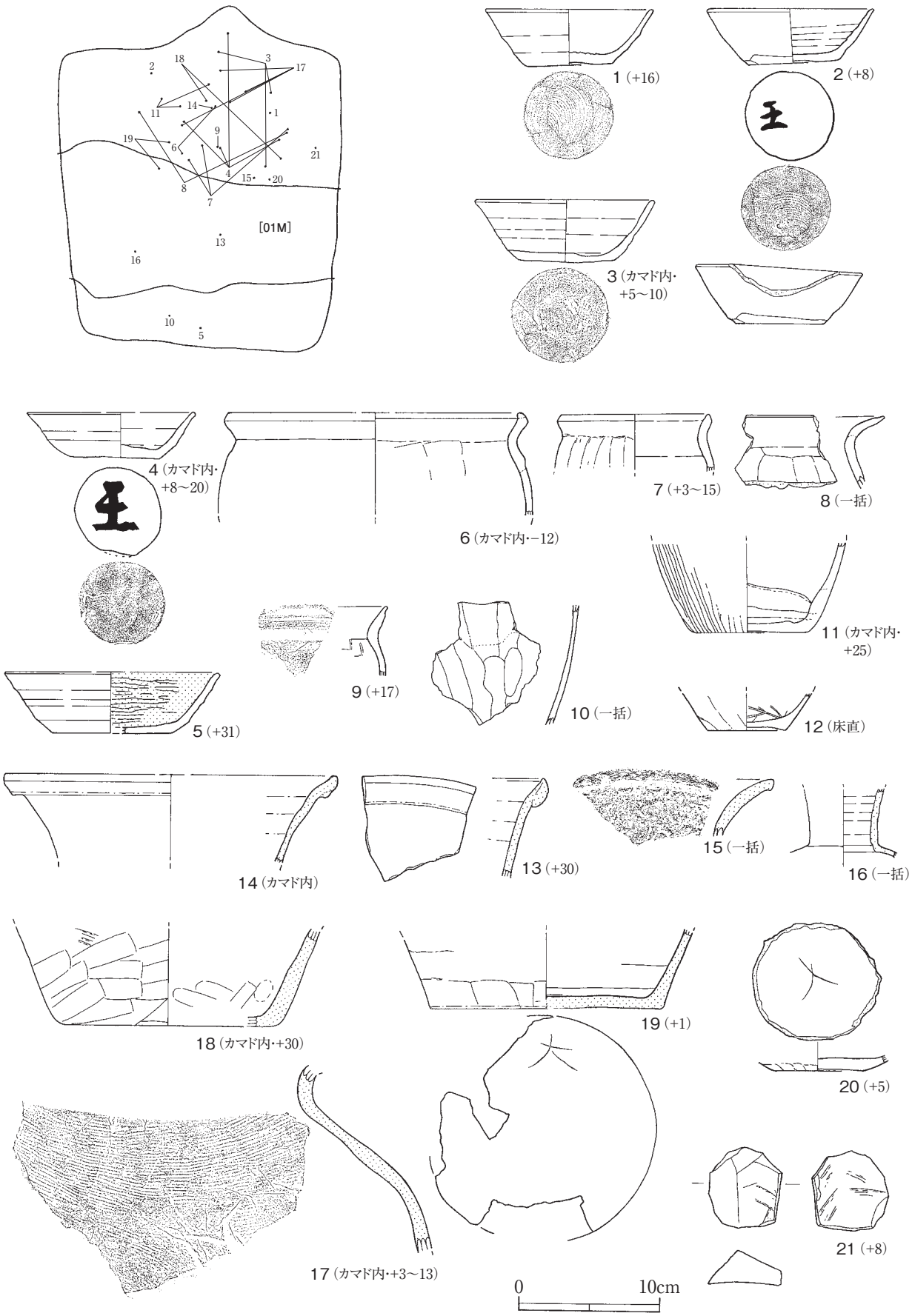




02Dカマド土層説明

1：茶灰褐色土　茶色砂質粘土主に、焼土粒少量混入。
2：茶灰褐色土　1層類似。焼土粒多い。
3：茶灰褐色土　1層類似。炭化粒含む。
4：赤 褐 色 土　焼土粒、焼土ブロック混合層。
5：赤 褐 色 土　焼土粒、ローム粒混合層。
6：暗 褐 色 土　黒色土、ローム粒混合層。
7：褐　色　土　灰色砂、ローム粒、ロームブロック混合層。
8：褐　色　土　灰色砂、ローム土。
9：褐　色　土　ローム土主に焼土粒少量含む。
10：褐　色　土　ローム土。
11：黒 漆 色 土　炭化粒主に焼土粒混入。

第11図　02D遺構実測図



第12図　02D出土遺物

02D遺物観察表（２）

9	土師器 甕	口縁部～胴部1/8	-	-	-	暗褐色	雲母，長石	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面ヘラなで。
10	土師器 甕	胴部片	-	-	-	外黒灰色（煤付着） 内茶褐色	白色粒，砂粒	胴部外面縦位ヘラ削り。胴部内面ヘラなで。
11	土師器 甕	胴部一部 底部全周	6.3	-	8.2	淡茶褐色	雲母，石英 小石粒	胴部外面下半縦位ヘラ磨き。胴部内面横位なで。 底部外面全体的に剥離。常陸型。
12	土師器 甕	底部全周	2.6	-	5.6	淡褐色	長石，小石粒	胴部外面斜位ヘラ削り。内面ヘラなで。
13	須恵器 甕	口縁部破片	-	-	-	赤茶褐色	雲母，赤色粒 白色粒	ロクロ成形。
14	須恵器 甕	口縁部1/5	6.1	23.5	-	黒褐色	長石	ロクロ成形。内外横なで。
15	須恵器 甕	口縁部1/5	-	-	-	灰褐色	雲母，長石 石英	内外剥離痕顕著。
16	須恵器 長頸壺	頸部1/4	4.8	-	-	外赤茶色 内淡茶灰色	ち密	ロクロ成形。
17	須恵器 甕	頸部～胴部1/4	11.9	-	-	暗灰色	雲母，石英 白色粒	内外口縁部横なで。胴部外面横位平行叩き目。 内面なで。
18	須恵器 甕	胴部～底部1/5	6.9	-	14.8	淡灰褐色	雲母，白色粒	胴部外面下端横位ヘラ削り。胴部に斜方向平行 叩き目文一部残る。胴部内面指なで，ヘラなで。
19	須恵器 甕	胴部一部 底部全周	5.7	-	16.4	黒茶褐色	長石	ロクロ成形。胴部外面横位ヘラ削り。胴部内面 指なで，ヘラなで。底部内面中央部摩耗痕。 底部外面焼成前ヘラ書き「大」。
20	土師器 坏	胴部一部 底部全周	1.1	-	6.4	外暗褐色 内橙褐色	雲母，赤色粒 小石粒	ロクロ成形。外面体部下端回転ヘラ削り。 底部内面中央に「×」ヘラ書き。
21	砥石		全長 5.7	幅 5.4	厚さ 2.4	重さ 74.6g		三面に使用痕。

０３Ｄ（第１３図・図版２.７）

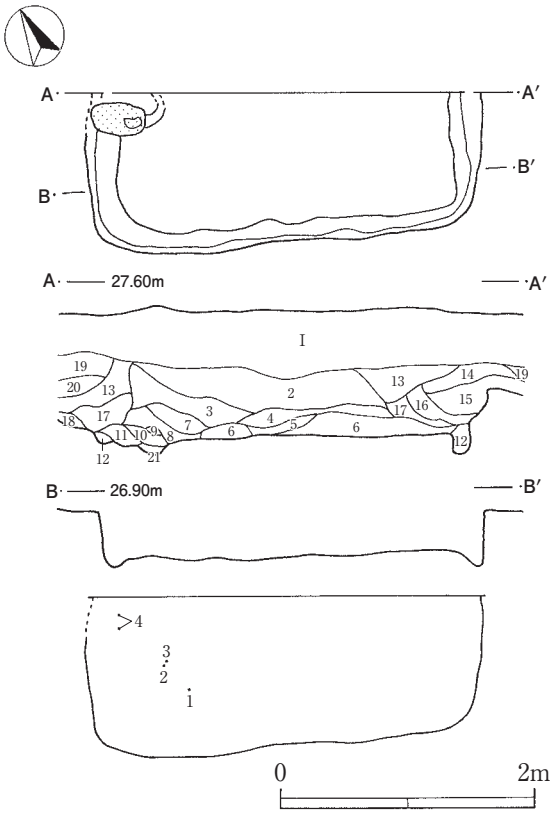
位置：調査区西隅。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-60°-Eで東に振れている。**重複関係**：02Mに切られる。**規模・平面形**：3.1m×1.1m以上×深さ0.35mの方形か（１/２程度調査区外）　**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを10㎝掘り込み地床とする。**周溝**：調査区内で全周し，カマド袖下まで掘り込む。幅15～20㎝で深さ５～10㎝。覆土は褐色土でやや軟質。**カマド**：西壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部は15㎝程度の掘り込みである。煙道立ち上がりはカクランによって不明。**覆土**：６～12層が該当する。02M及びカクランにより詳細は不明である。**遺物出土状態**：トータルステーションで８点出土している。１～３は床面直上。４はカマド内。1.2.3は倒位で，2.3は重なった状態で出土した。

０４Ｄ（第１４図・図版２.８）

位置：調査区南隅中央。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-6°-Eでわずかに東に振れている。**規模・平面形**：2.5m×1.4m以上×深さ0.35mで，平面形は調査区外に及ぶため不明。　**壁**:床面からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ソフトローム中の地床である。**カマド**：北壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部・煙道部ともに，カクランを受けているため詳細は不明。袖部と想定される位置に，少量の淡褐色砂質粘土塊が25㎝の円形状に２か所みられる。焚口前の床面上に20㎝程度の強く焼けた範囲がみられる。**ピット**：東西壁際に２か所みられる。Ｐ１は深さ５㎝，Ｐ２は深さ25㎝で，両ピットとも覆土に炭化粒を含み，本遺構に伴うと考える。**覆土**：６層に分層。北東コーナーに炭化材がまとまって出土している。黒色土を主体とした層で，各層とも炭化粒，焼土粒を含み廃棄時の埋戻し土と考える。**遺物出土状態**：トータルステーションで45点出土している。やや浮いた状態の出土であるが，カマド内の2.3.8.10とその他の出土遺物に時間差は見られない。11は流れ込みの遺物である。

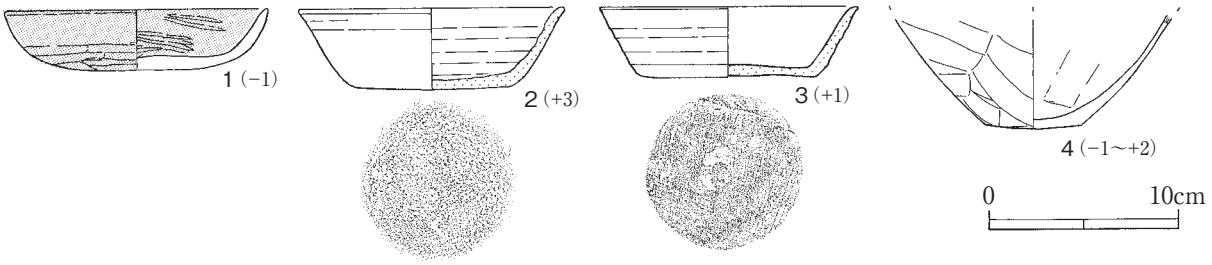
03D遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	色調	胎土	調整・文様等
1	土師器 坏	完形	3.2	14.0	-	赤褐色	長石，砂粒	口縁部外面横位なで。外面底部ヘラ削り。 内面横位ヘラ磨き。底部内面剥離著しい。 内外面赤彩。
2	須恵器 坏	完形	4.3	14.0	7.8	外暗灰色 内淡灰褐色	雲母，長石	ロクロ成形。切り離し不明。外面全体，使用時の摩耗 痕明瞭。内面底部摩耗痕顕著。
3	須恵器 坏	完形	3.6	13.6	9.1	外淡橙灰色 内淡茶灰色	雲母，白色粒	ロクロ成形。切り離し不明。底部外面全面手持ち ヘラ削り。底部外面下端回転ヘラ削り。
4	土師器 甕	胴部～底部2/3	5.8	-	5.2	外暗茶褐色 内赤褐色	長石，砂粒	胴部，底部外面ヘラ削り。胴部内面ヘラなで。



03D土層説明

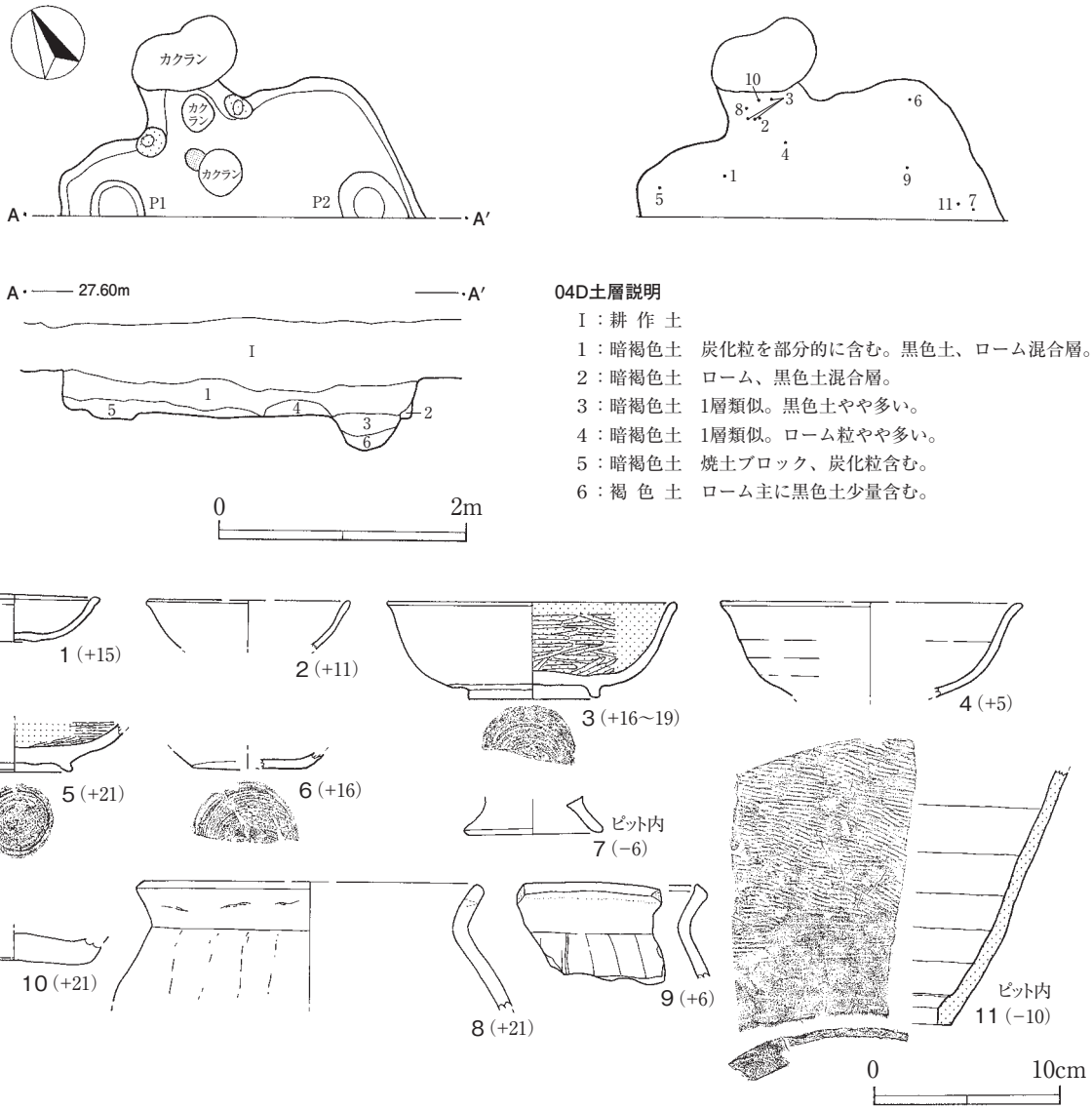
Ⅰ：暗 褐 色 土　耕作土。
2：暗 褐 色 土　黒色土、ローム混合。1～2mm大ローム粒含む。02M覆土。
3：暗 褐 色 土　2層類似。黒色土の割合多い。02M覆土。
4：黒 褐 色 土　ローム少量含む。硬化面。02M覆土。
5：暗 褐 色 土　ローム、黒色土混合層。硬化面。02M覆土。
6：暗 褐 色 土　白色砂質粘土。黒色土、ローム混合層。03D覆土。
7：暗 褐 色 土　灰色砂、ローム、黒色土混合層。ロームブロック点在。03D覆土。
8：灰 褐 色 土　灰色砂主に焼土ブロック混入。03D覆土。
9：淡 灰 色 土　灰色砂。03D覆土。
10：暗赤灰色土　焼土粒、焼土ブロック主に灰色砂混入。03D覆土。
11：淡 灰 色 土　焼土粒、焼土ブロック混入。03D覆土。
12：褐　色　土　ローム土。03D覆土。
13：暗 褐 色 土　1mm大ローム粒混入。カクラン。
14：暗 褐 色 土　ローム、黒色土混合。カクラン。
15：暗 褐 色 土　ロームブロック、暗褐色土混合。カクラン。
16：暗 褐 色 土　黒色土主にローム少量含む。カクラン。
17：褐　色　土　ローム粒、ロームブロック混合。カクラン。
18：褐　色　土　ローム土。カクラン。
19：暗 褐 色 土　黒色土主にローム粒混入。カクラン。
20：暗 褐 色 土　ロームブロック点在。カクラン。
21：赤 茶 色 土　焼土粒、ロームブロック混合。03D覆土。



第13図　03Ｄ遺構実測図・出土遺物

04D遺物観察表

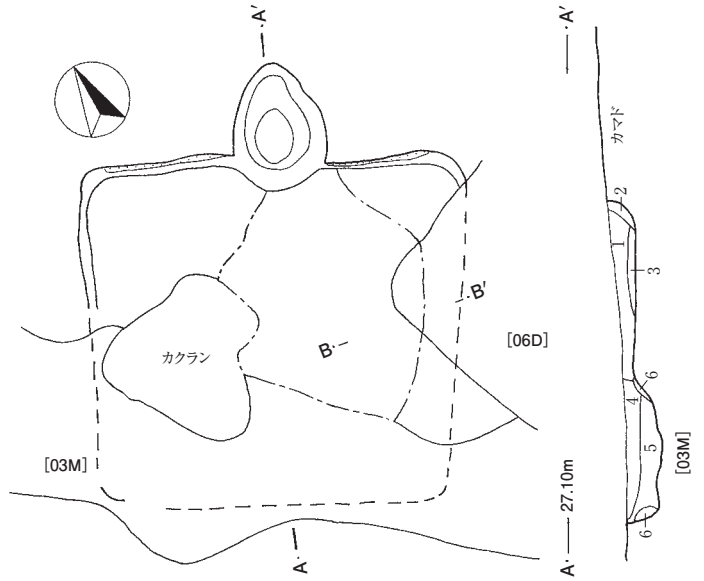
	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	完形 底部一部欠損	2.6	9.2	3.6	淡茶褐色 一部黒斑	雲母，長石	ロクロ成形。ロクロなで。
2	土師器 坏	口縁部1/4	2.7	11.0	-	暗茶褐色	長石	ロクロ成形。ロクロなで。
3	土師器 埦	口縁部2/3 底部1/2	5.2	15.6	7.0	橙褐色～暗茶褐色	雲母，長石	ロクロ成形。粗い回転糸切り離し後高台貼り付け。 内面横位ヘラ磨き後黒色処理。
4	土師器 埦	口縁部～胴部1/5	4.9	18.0	-	茶褐色	雲母，長石	ロクロ成形。ロクロなで。
5	土師器 高台付埦	高台部全周	2.2	-	5.8	外淡橙褐色，黒斑内黒色	長石	ロクロ成形。高台部貼り付け。 内面ヘラ磨き後黒色処理。
6	土師器 坏	底部1/2	0.9	-	5.8	淡褐色	長石，赤色粒 小石粒	ロクロ成形。底部回転切り離し未調整。 体部下端回転ヘラ削り。
7	土師器 埦	高台部1/5	2.1	-	7.1	淡褐色	雲母，長石	ロクロ成形。高台部貼り付け。
8	土師器 甕	口縁部～胴部1/5	6.8	18.0	-	橙褐色	長石	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面なで。二次焼成により内外剥離。
9	土師器 甕	口縁部～胴部1/5	-	-	-	茶褐色	雲母，長石	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面なで。
10	土師器 甕	底部2/3	1.5	-	8.0	橙褐色	長石，小石粒	胴部外面ヘラ削り。胴部内面なで。
11	須恵器 甑	胴部～底部1/5	13.9	-	-	淡青灰色	雲母，石英	ロクロ成形。胴部外面下半横位ヘラ削り。外面上半横位平行叩き目。胴部内面ヘラなで。五孔式の甑。



第14図　04Ｄ遺構実測図・出土遺物

０５Ｄ（第１５.１６図・図版２.３.８）

位置：調査区東側。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-22°-Eでやや東に振れている。**重複関係**：03Mに切られ, 06Dを切る。遺物時期差から06Dが古い。**規模・平面形**:推定値で3.0m×2.6m×深さ0.2mの長方形　**壁**:床面から緩やかに立ち上がる。**床面**:ソフトローム中の地床である。カマド焚口前に硬化範囲がみられる。**カマド**：北壁中央に壁を掘り込んで作られる。焚口部は深く，床面から36cmの深さで，ハードロームを10cm掘り込んでいる。焚口部中央に強く焼けた火床部があり，44cm×30cmの楕円形状にみられる。煙道は長く，壁面から74cmのＶ字状の切り込みで, その立ち上がりは火床部奥から角度をもって立ち上がっている。袖部は見られないが，北壁面の焚口部を挟んだ両サイドに，幅10～12cm，長さ0.8～1.0mの粘土貼り範囲がみられる。**覆土**：３層に分層。自然埋没層である。**遺物出土状態**：トータルステーションで130点，覆土中・床面上・カマド内から出土している。覆土中の遺物に時間差は見られない。カマド内から，打ち欠き土器4.5が出土し，５については，倒立した状態であった。

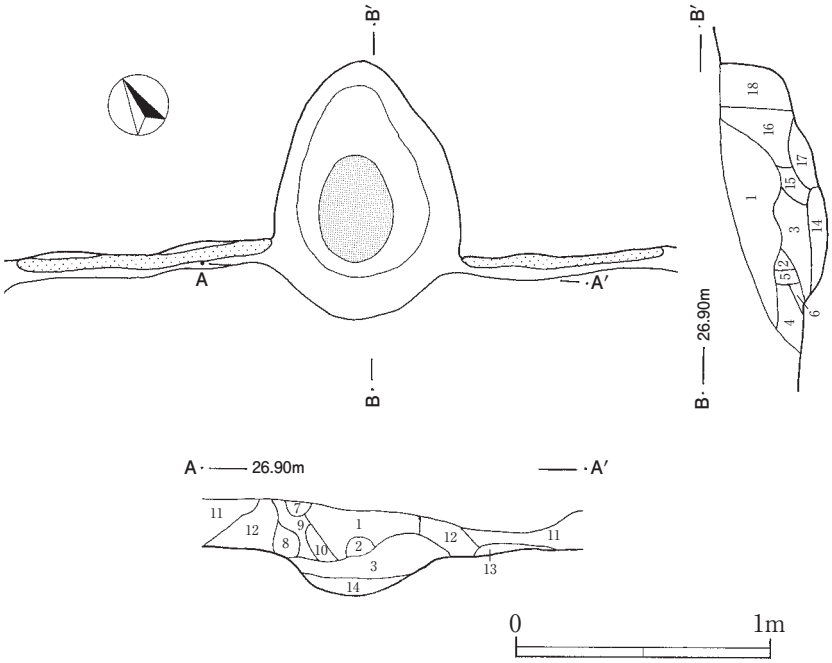


05D土層説明（A－A′）

1：暗褐色土　ローム、黒色土混合。
2：暗褐色土　ローム、黒色土混合。1層より黒色土少ない。
3：暗褐色土　ローム、黒色土混合。焼土粒、砂質粘土粒混入。
4：暗褐色土　ローム、黒色土混合。1cm大ロームブロック混入。
5：暗褐色土　ローム、黒色土混合。4層類似。黒色土やや多い。
6：褐 色 土　ローム粒主体。暗褐色土少量含む。

05D土層説明（B－B′）

1：赤 灰 色 土　焼土化灰色砂。
2：暗 褐 色 土　黒色土、暗褐色土混合層。
3：淡灰褐色土　灰色砂と暗褐色土混合層。
5：褐　色　土　ローム、焼土粒、黒色土混合。ややしまる。
6：褐　色　土　ロームブロック、黒色土混合層。05D貼床。硬化する。
7：暗 褐 色 土　黒色土主にローム粒、3～5mm大ロームブロック混入。
8：暗 褐 色 土　ローム、黒色土混合層。2～3mm大ローム粒混入。
9：暗 褐 色 土　ローム粒主に黒色土混入。粒子細かい。
10：暗 褐 色 土　ローム、暗褐色土混合。ややしまる。



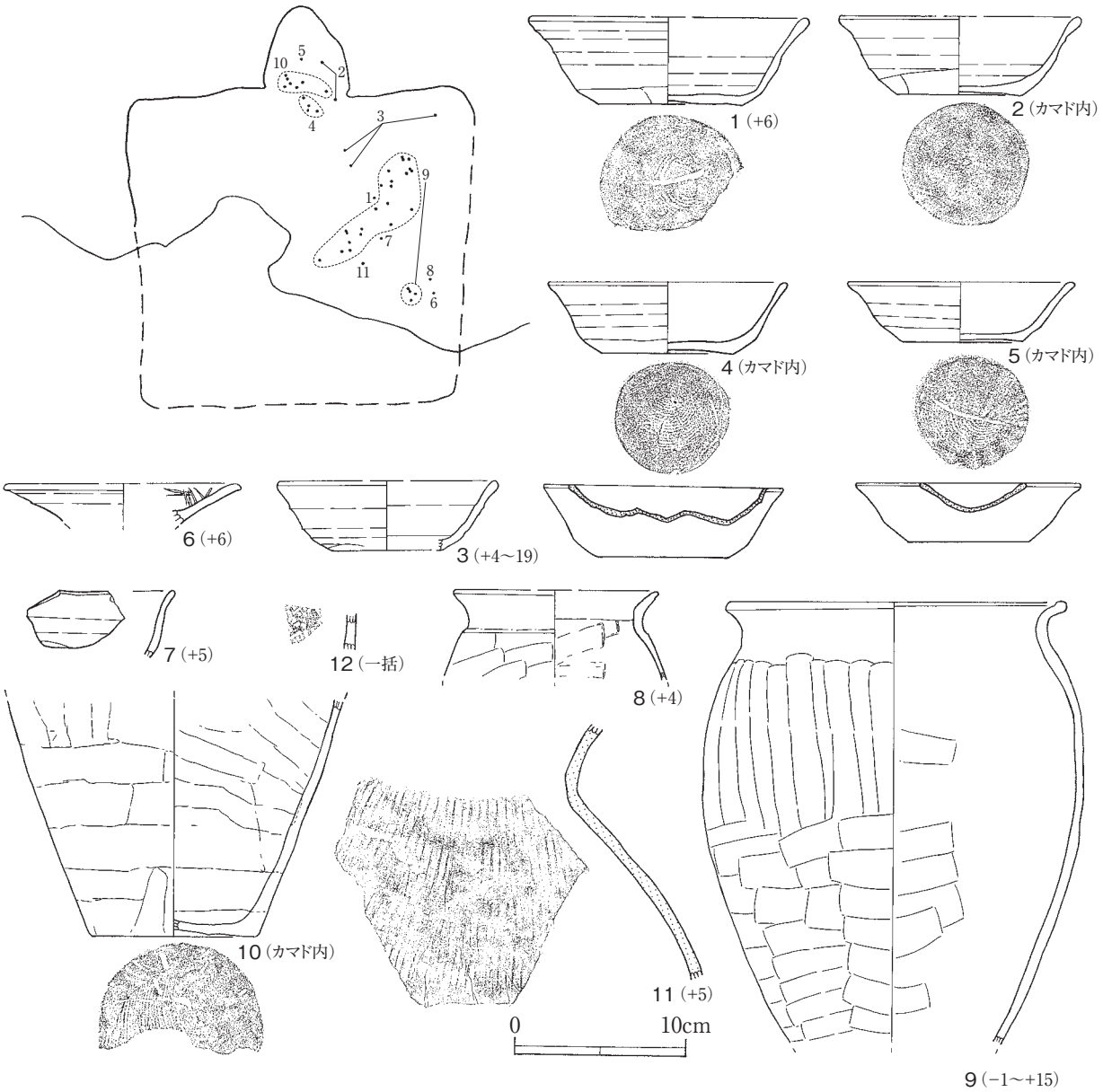
05Dカマド土層説明

1：暗 褐 色 土　褐灰白砂、黒色土混合。焼土粒少量含む。
2：赤 褐 色 土　褐灰白砂、焼土粒混合。
3：黒 褐 色 土　焼土粒、炭化物、黒色土混合層。
4：黒 褐 色 土　ローム、黒色土混合。焼土粒混入。
5：淡 灰 色 土　灰色砂。
6：黒 褐 色 土　ローム、黒色土混合層。
7：淡灰赤色土　灰色砂と赤色砂。
8：淡赤褐色土　赤色砂主体。
9：茶 褐 色 土　暗褐色土と灰色砂。
10：赤 灰 色 土　焼土と赤色砂。
11：黒 褐 色 土　黒色土主体。
12：灰　色　砂　袖か？灰色砂質粘土。
13：灰　色　砂　灰色砂。
14：赤 褐 色 土　焼土ブロックとローム土。
15：赤 褐 色 土　赤色砂、暗褐色土混合層。
16：暗 褐 色 土　赤色砂、黒色土混合層。
17：灰 赤 色 土　赤色砂と灰色砂。
18：暗 褐 色 土　黒色土、焼土粒混合層。しまる。

第15図　05Ｄ遺構実測図

05D遺物観察表（1）

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 椀	口縁部～底部2/5	5.1	16.2	8.4	淡茶褐色	雲母，長石 小石粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後回転ヘラ削り。 体部外面下端回転ヘラ削り。
2	土師器 椀	口縁部1/5 底部全周	4.6	14.2	7.3	淡橙褐色	雲母，小石粒	ロクロ成形。切り離し不明。体部外面下端及び底部周縁回転ヘラ削り。
3	土師器 坏	口縁部～ 体部下端1/2	4.1	13.0	-	淡茶褐色	雲母，石英 小石粒	ロクロ成形。ロクロなで。
4	土師器 坏	口縁部～底部2/3	4.2	13.7	7.4	淡橙褐色	雲母，長石	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部外面下端回転ヘラ削り。体部内面なで。
5	土師器 坏	完形 口縁部打ち欠き	3.6	13.2	7.0	淡橙褐色	雲母，長石 石英	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部外面下端回転ヘラ削り。体部内面なで。



第16図　05Ｄ出土遺物

05D遺物観察表（２）

6	土師器 皿	口縁部～ 体部下端1/4	2.3	14.0	-	淡橙褐色	雲母，長石	ロクロ成形。外面ロクロなで。 内面粗いヘラ磨き。
7	土師器 椀	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母，石英 砂粒	ロクロ成形。外面ロクロなで。体部下半 ヘラ削り。内面なで。
8	土師器 甕	口縁部～胴部1/4	5.1	12.0	-	淡橙褐色	雲母，石英 黒色粒	口縁部横なで。胴部外面横位ヘラ削り。 胴部内面横位ヘラなで。
9	土師器 甕	口縁部～ 胴部下端2/3	25.9	19.8	-	淡茶褐色	長石，白色粒	口縁部横なで。胴部外面上半縦位ヘラ削り。 外面下半横位ヘラ削り。胴部内面ヘラなで。
10	土師器 甕	胴部～底部1/2	13.7	-	9.8	外淡茶褐色 内暗橙褐色	雲母，白色粒	胴部外面上半縦位ヘラ削り。下半横位ヘラ削り。 底部ヘラ削り。胴部内面横位ヘラなで。
11	須恵器 甕	頸部～胴部片	-	-	-	淡褐色	雲母，長石 白色粒	口縁部横なで。胴部外面縦位平行叩き目。 胴部内面なで。
12	土師器 甕	胴部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母，石英	外面格子目。

０６Ｄ（第１７～１９図・図版３.９）

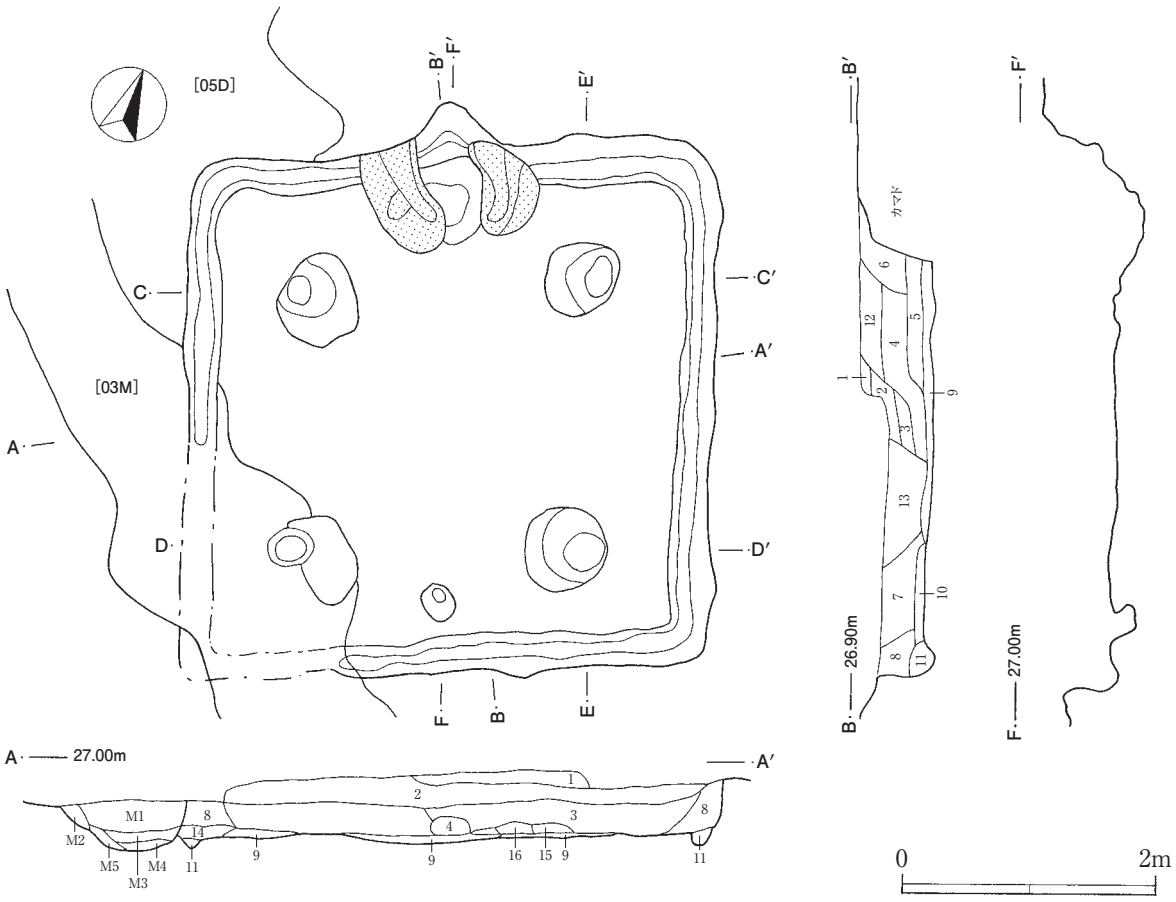
位置：調査区東隅。**確認面**：Ⅱｃ層中。**主軸方位**：N-18°-Wでやや西に振れている。**重複関係**：03M及び05Dに切られる。**規模・平面形**：4.2m×4.0m×深さ0.5～0.6mのほぼ方形　**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを15㎝程度掘り込み地床とする。**周溝**：全周し，カマド袖下まで掘り込まれる。幅20㎝で深さ10～12㎝。覆土は暗褐色土でやや軟質。**カマド**：北壁中央に壁を掘り込んで作られる。本遺構のカマドは，調査から同位置での新旧の作り替えがみられた。当初のカマドは，火床部が深く，作り替えのカマド火床部は浅い。かまど及び遺構についての情報は，当初の遺構として，以下進めていく。焚口部は深い掘り込みで，床面から18～20㎝の深さである。煙道立ち上がりは火床部奥から角度をもって立ち上がっている。袖部の構築はロームブロック主体の褐色土を土台とし，黒色土・ローム土・砂質粘土により積み上げている。また部分的に細い木杭を，袖の補強材として用いていた。**ピット**：主柱穴４か所，副柱穴１か所を検出した。覆土は黒色土とローム粒混じりの暗褐色土でやや軟質である。主柱穴の規模・深さは50～60㎝の円形で深さ40～60㎝程度である。副柱穴は30㎝の円形で20㎝程度掘り込まれる。**覆土**：16層に分層。２～８層は廃棄時の埋戻し土と考えられる。**遺物出土状態**：トータルステーションで383点出土しているが，床面～覆土中位と覆土上位による時期差がみられる。1.2.4.5.6.7.8.10.11.14.15が古く，3.9.12.13が新しい。これが，カマドの作り替えと関係するものかは結論づけられない。

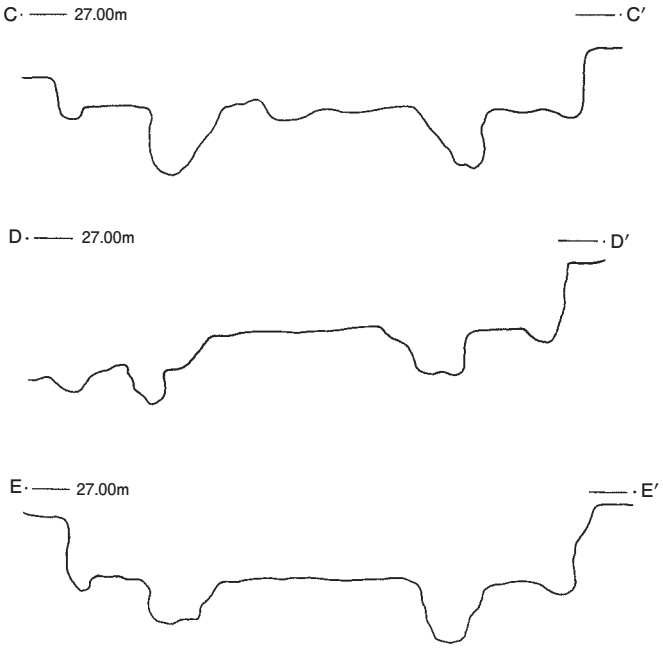
０７～１０Ｄ（第２０図）

概要：詳しくは22ページの第20図を参照されたいが，ここでは重複関係にある４遺構について述べていく。当初07Dが作られ，次に少し深い10Dが07Dを切っている。10Dの覆土中に08Dの床面が構築されるが，03Mに切られているため，規模等は一部のみの残存で想定である。09Dについては，08Dの床面を切ってカマドが構築される。09D竪穴建物は，南側に伸びているため詳細は不明である。

06D遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	口縁部～底部1/2	3.5	13.2	9.4	橙褐色	雲母，長石 黒色粒	ロクロ成形。底部回転ヘラ切り離し後周縁回転ヘラ削り。体部外面下端回転ヘラ削り。
2	土師器 椀	口縁部～胴部1/3	5.1	13.6	-	淡橙褐色	長石，白色粒 黒色粒	口縁部なで。体部外面ヘラ削り。
3	土師器 椀	口縁部片	-	-	-	暗茶褐色	雲母，白色粒	ロクロ成形。ロクロなで。
4	土師器 坏	口縁部～底部1/4	4.0	14.1	-	灰色～淡橙灰色	長石，白色粒	ロクロ成形。外面体部下端及び底部ヘラ削り。
5	土師器 坏	底部全周	1.6	-	6.9	淡橙灰色	雲母，長石	ロクロ成形。外面底部回転ヘラ切り離し後周縁回転ヘラ削り。内外面に火襷痕。
6	須恵器 坏蓋	鈕～胴部	1.7	-	-	暗灰色	雲母，白色粒	ロクロ成形。天井部回転ヘラ削り。
7	土師器 甕	口縁部～胴部片	-	-	-	淡茶褐色	雲母，白色粒	口縁部なで。胴部外面横位ヘラ削り。
8	土師器 甕	口縁部～胴部1/4	4.9	19.0	-	淡茶褐色	雲母，長石 石英	胴部外面横位ヘラなで。胴部内面横位なで。
9	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	外黒褐色 内淡茶褐色	雲母，砂粒	内外面横位なで。
10	土師器 甕	口縁部～胴部1/4	9.1	21.8	-	外淡黄褐色 内黒褐色	雲母，長石 石英	口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラなで。 胴部内面横位なで。
11	須恵器 甕	口縁部～胴部片	-	-	-	外灰色 内淡橙灰色	長石，石英	口縁部横なで。胴部外面横位平行叩き目。 胴部内面横位なで。
12	須恵器 甕	口縁部片	-	-	-	灰色	長石，石英	内外面横なで。
13	須恵器 甕	口縁部～胴部片	-	-	-	淡橙灰色	雲母，白色粒	口縁部なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面なで。
14	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	淡橙灰色	雲母，長石	胴部外面同心円文叩き目，胴部内面なで。
15	土師器 甕	胴部上半～ 胴部下半2/3	23.5	-	-	淡橙褐色 一部黒斑	雲母，長石 石英	胴部外面中央横位ヘラなで。外面中央～下部ヘラ磨き。 胴部内面ヘラなで。常陸型。

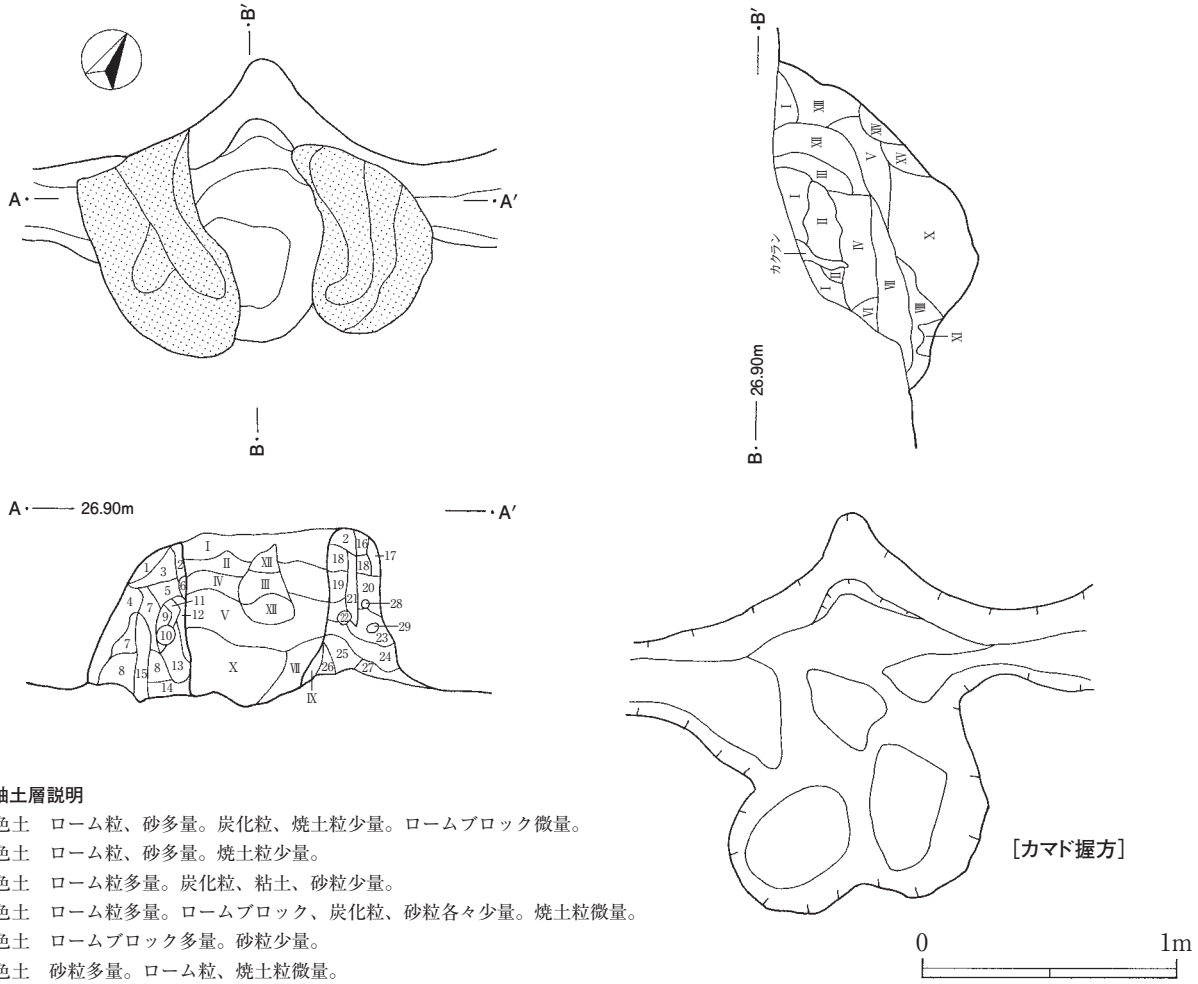




06D土層説明

1：黒褐色土　ローム少量含む。
2：褐 色 土　ローム主に黒色土混入。
3：褐 色 土　3～5mm大ロームブロック、焼土粒混入。
4：淡褐色土　荒砂主体、焼土粒混入、黒色土含む。
5：暗褐色土　2～3mm大ローム粒、焼土粒、黒色土混合層。
6：暗褐色土　黒色土主にロームブロック、焼土ブロック、荒砂混合層。
7：暗褐色土　黒色土、ローム混合。1cm大ロームブロック混入。
8：暗褐色土　7層類似。ロームブロック含まず。
9：褐 色 土　黒色土、ローム混合層。
10：明褐色土　ロームブロック主に黒色土少量含む。
11：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。
12：暗褐色土　黒色土、ローム粒、焼土粒混合層。
13：暗褐色土　黒色土主にローム混入。
14：暗褐色土　8層類似。ロームブロック含む。
15：淡灰色土　灰色粘土。
16：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。ロームブロック混入。
M1：黒褐色土　黒色土主に、ローム粒、ロームブロック混入。
M2：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。
M3：黒褐色土　M1に類似。ローム少ない。
M4：黒褐色土　黒色土とロームブロック。
M5：暗褐色土　M2に類似。黒色土やや多い。

第17図　06Ｄ遺構実測図（１）



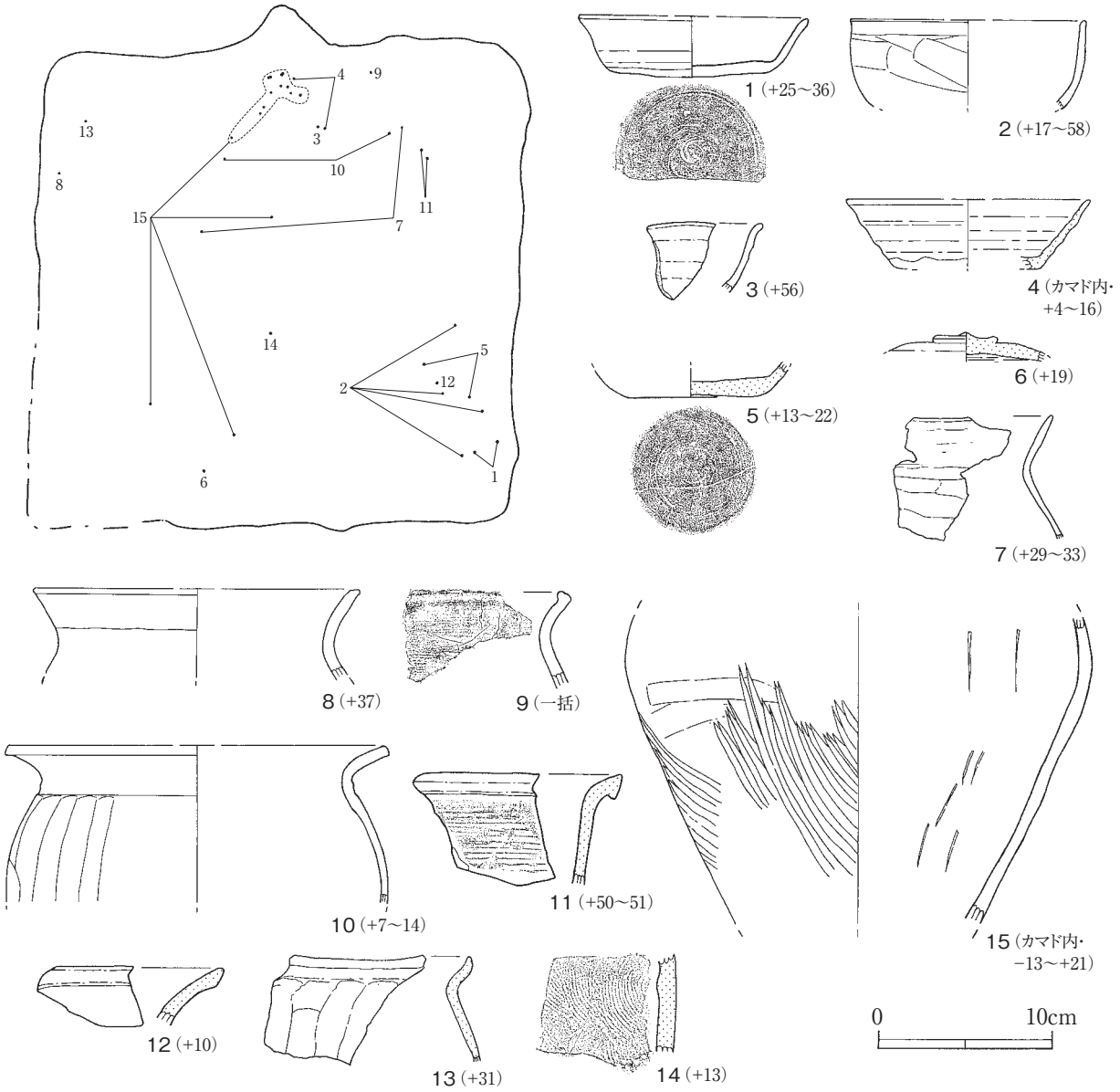
06Dカマド袖土層説明

1：暗褐色土　ローム粒、砂多量。炭化粒、焼土粒少量。ロームブロック微量。
2：暗褐色土　ローム粒、砂多量。焼土粒少量。
3：黒褐色土　ローム粒多量。炭化粒、粘土、砂粒少量。
4：茶褐色土　ローム粒多量。ロームブロック、炭化粒、砂粒各々少量。焼土粒微量。
5：茶褐色土　ロームブロック多量。砂粒少量。
6：暗褐色土　砂粒多量。ローム粒、焼土粒微量。
7：褐 色 土　砂、粘土ブロック多量。ロームブロック少量。ローム粒、砂粒各々少量。
8：褐 色 土　ロームブロック多量。ローム粒微量。カマド袖土台。
9：褐 色 土　砂多量。支柱痕か。
10：赤褐色土　焼土粒、焼土ブロック主体。褐色土微量。
11：茶褐色土　粘土ブロック多量。ローム粒、炭化粒少量。
12：暗褐色土　焼土粒多量。下部カマド火床面。
13：暗褐色土　ローム粒、焼土粒、砂、炭化粒各々少量。
14：黒褐色土　ローム粒少量。
15：黒褐色土　ローム粒少量。支柱痕か。
16：暗褐色土　ローム粒、炭化粒、砂微量。
17：黒褐色土　ローム粒、砂粒微量。
18：黒褐色土　ローム粒、砂粒少量。炭化粒微量。
19：褐 色 土　ローム粒、砂粒多量。炭化粒少量。粘土ブロック。
20：褐 色 土　粘土ブロック多量。
21：暗褐色土　砂粒少量。支柱痕か。
22：茶 色 土　粘土、砂粒、炭化粒混合。
23：褐 色 土　ほぼ粘土。砂粒、ローム粒少量。炭化粒、焼土粒微量。
24：茶褐色土　粘土粒多量。ロームブロック、ローム粒少量。炭化粒微量。
25：褐 色 土　粘土。ロームブロック少量。焼土粒、炭化粒微量。
26：暗褐色土　焼土粒、炭化粒少量。
27：褐 色 土　ローム粒多量。炭化粒少量。ロームブロック微量。
28：褐 色 土　炭化粒、砂粒、ローム粒微量。
29：褐 色 土　粘土粒多量、炭化粒少量。

06Dカマド土層説明

Ⅰ：褐 色 土　砂粒多量。ローム粒、ロームブロック、焼土粒少量。
Ⅱ：褐 色 土　粘土、砂多量。
Ⅲ：暗褐色土　ロームブロック少量。砂粒、ローム粒多量。
Ⅳ：茶褐色土　ロームブロック、砂多量。焼土粒少量。
Ⅴ：茶褐色土　焼土ブロック、焼土粒、砂粒、ローム粒多量。最終カマド火床面。
Ⅵ：茶褐色土　ローム粒、砂粒多量。再建後の貼床。
Ⅶ：暗褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量。
Ⅷ：褐 色 土　ローム粒、焼土粒少量。
Ⅸ：暗褐色土　炭化粒、ローム粒少量。カマド袖土台部。
Ⅹ：焼　　土　茶褐色土、焼土ブロック、炭化ブロック多量。砂粒、焼土粒多量。当初の火床上部。
Ⅺ：褐 色 土　粘土、砂粒多量。焚口部。
Ⅻ：砂・粘土　カマド構築材。
XIII：暗褐色土　炭化粒、ローム粒、焼土粒各々少量。煙道部。
XIV：ソフトローム
XV：暗褐色土　焼土粒、ローム粒少量含。

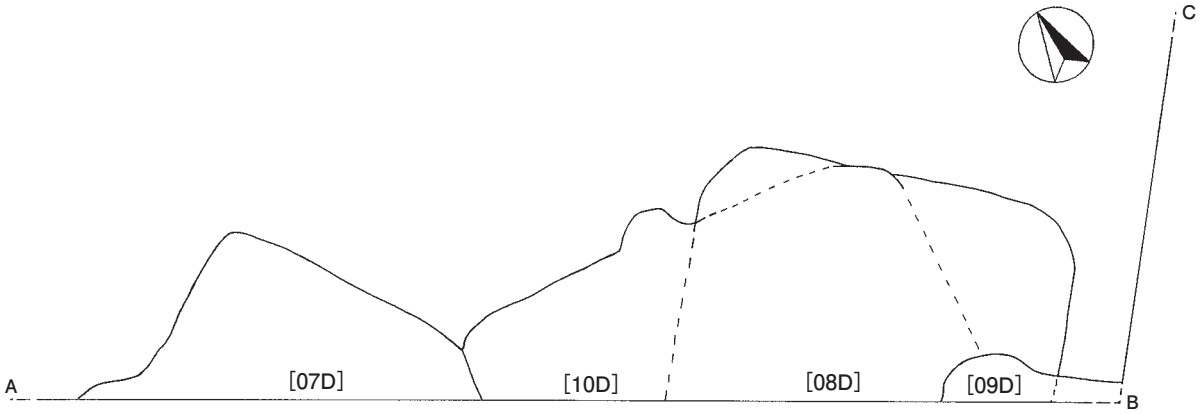
第18図　06Ｄ遺構実測図（２）

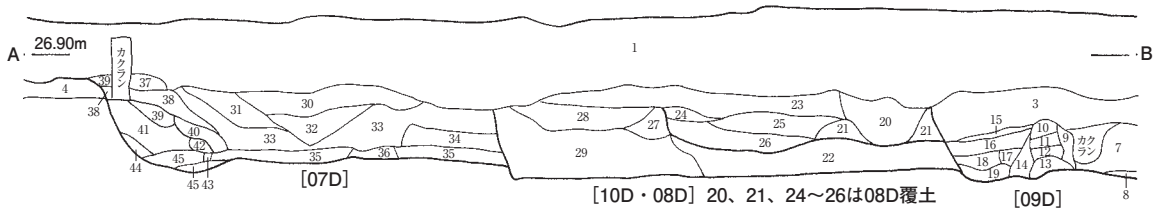


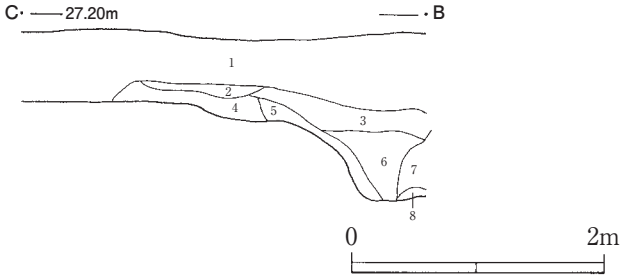
第19図　06Ｄ出土遺物

０７Ｄ（第２０.２１.２４図・図版３.９.１０）

位置：調査区南東隅。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：N-30°-Wでやや西に振れている。**重複関係**：04M及び10Dに切られる。**規模・平面形**：2.8m以上×1.1m以上×深さ0.5mで平面形は不明。**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを20cm程度掘り込み地床とする。**周溝**：幅20cmで深さ10cm。覆土は暗褐色土で焼土・炭化物・黒色土を含み，やや軟質。**カマド**：北壁に壁を掘り込んで作られる。ハードロームを土台として，ロームブロック・黒色土・灰色粘土を積み上げている。**ピット**：20cmの円形で深さ10cm程度である。カマド袖横に周溝とは異なる掘り込みがみられた。深さは周溝と同程度。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土が33～35層において見られ，廃棄時の埋戻し土と考えられる。**遺物出土状態**：25点出土している。覆土中が主体。遺構の重複関係からみると1.6.9.10～12.15が本遺構と関係する遺物か。







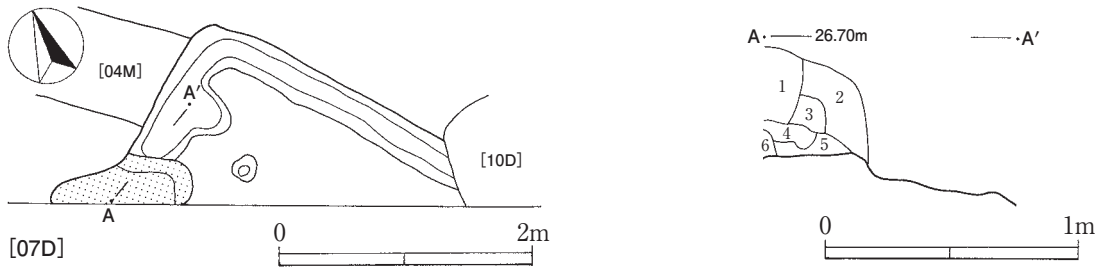
03M・09D土層説明（東壁）

1：耕 作 土　暗褐色土。ローム粒少量。
2：暗褐色土　ローム粒、焼土粒少量。
3：暗褐色土　ローム粒多量。
4：褐 色 土　ローム粒少量。
5：褐 色 土　ロームブロック、ローム粒少量。
6：暗褐色土　ロームブロック、ローム粒多量。
7：暗褐色土　ローム粒、炭化粒少量。
8：茶褐色土　ローム粒多量。

07D～10D土層説明（南壁）

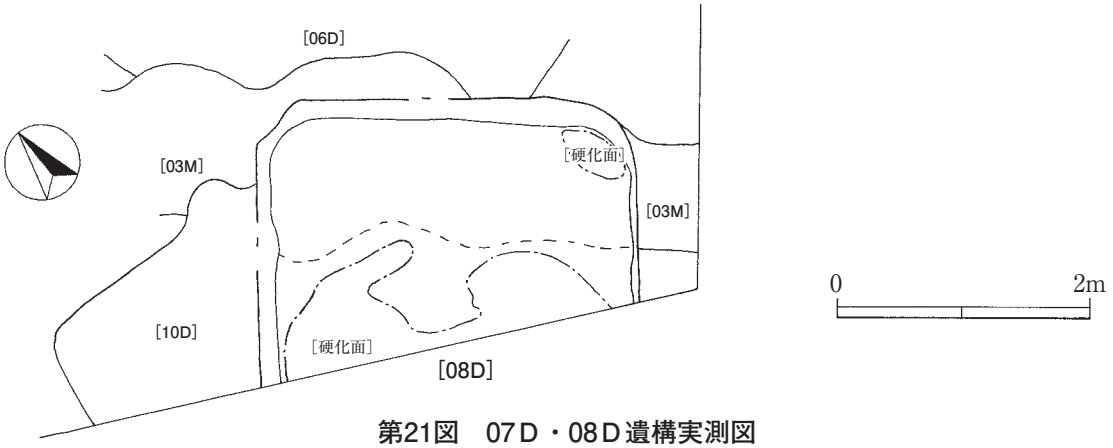
1：耕 作 土　暗褐色土。ローム粒少量。
3：暗褐色土　ローム粒多量。
7：暗褐色土　ローム粒、炭化粒少量。
8：茶褐色土　ローム粒多量。
9：暗褐色土　ローム粒少量。
10：暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化粒各々少量。
11：暗褐色土　ロームブロック、ローム粒、粘土、砂混合層。焼土粒、炭化粒少量。
12：黒褐色土　ロームブロック、ローム粒少量。
13：暗褐色土　ロームブロック多量。ローム粒少量。
14：暗褐色土　ローム粒多量。ロームブロック少量。
15：黒褐色土　ローム粒少量。
16：暗褐色土　ローム粒多量。ロームブロック、焼土粒、炭化粒少量。
17：暗褐色土　砂（カマド構築材）多量。
18：暗褐色土　ローム粒多量。
19：黒褐色土　ローム粒、炭化粒少量。
20：褐 色 土　ローム粒少量。焼土粒、炭化粒微量。
21：褐 色 土　ロームブロック、ローム粒、炭化粒少量。
22：茶褐色土　ロームブロック、ローム粒、焼土粒、炭化粒各々多量。
23：黒褐色土　ローム粒少量。
24：黒褐色土　ローム粒、焼土粒微量。
25：暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化粒各々少量。
26：褐 色 土　焼土粒多量。ローム粒、炭化粒少量。ロームブロック微量。
27：暗 褐 色 土　ロームブロック少量。ローム粒多量。
28：黒 褐 色 土　ロームブロック、焼土ブロック、ローム粒各々少量。
29：茶 褐 色 土　ロームブロック、ローム粒多量。焼土粒、炭化粒少量。
30：茶 褐 色 土　ロームブロック多量。ローム粒、炭化粒少量。
31：茶 褐 色 土　ローム粒多量。ロームブロック、焼土粒、炭化粒少量。
32：暗 褐 色 土　ロームブロック、黒色土少量。焼土粒、炭化粒微量。
33：褐　色　土　ロームブロック、ローム粒多量。焼土粒、炭化粒少量。
34：茶 褐 色 土　ロームブロック多量。ローム粒少量。焼土粒、炭化粒微量。
35：褐　色　土　ロームブロック、ローム粒少量。焼土粒、炭化粒微量。
36：褐　色　土　ほぼ砂、粘土。褐色土微量。
37：茶 褐 色 土　ロームブロック、ローム粒少量。
38：褐　色　土　ローム粒多量。ロームブロック、焼土ブロック少量。砂および砂粒多量。焼土粒、炭化粒微量。
39：淡灰色粘土
40：暗灰褐色土　灰色粘土、暗褐色土、焼土粒混入。
41：淡灰褐色土　40層類似。暗褐色土少ない。
42：淡灰色粘土　39層に同じ。
43：赤 褐 色 土　暗褐色土主に焼土粒混入。
44：暗 褐 色 土　3cm大ロームブロック、褐色土、少量の焼土粒混入。
45：赤 灰 色 土　赤色化灰色粘土。
46：褐　色　土　ローム土主に少量の焼土粒混入。

第20図　07D～10D土層断面図



07Dカマド土層説明

1：淡灰褐色土　黒色土、灰色粘土混合層。
2：灰 色 粘 土
3：暗 褐 色 土　黒色土、灰色粘土。
4：暗 褐 色 土　3層類似。焼土粒やや少ない。
5：褐　色　土　ロームブロック、暗褐色土混合層。
6：赤 褐 色 土　焼土粒、焼土ブロック混合。



第21図　07Ｄ・08Ｄ遺構実測図

０８Ｄ（第２０.２１.２４図・図版９.１０）

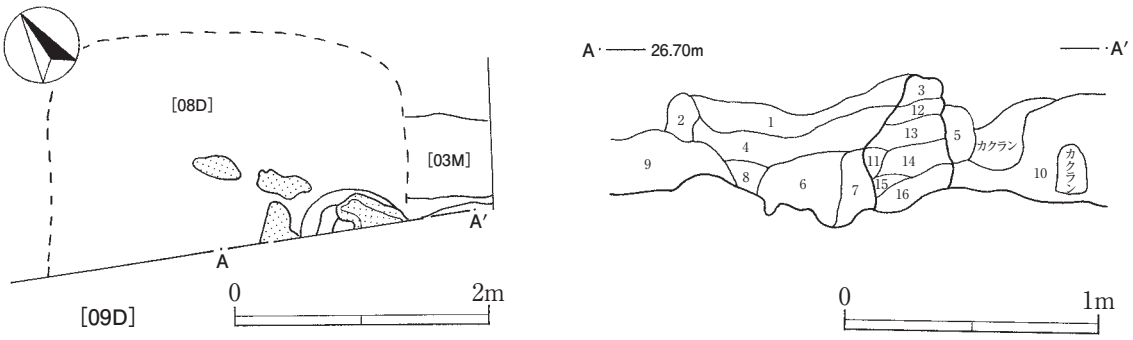
位置：調査区南東隅。**確認面**：10D調査中。**主軸方位**：N-40°-Eで東に振れている。**重複関係**：10D・06Dを切り09Dに切られる。**規模・平面形**：3.0m×2.2m以上×深さ0.45m（Ⅲ層上面から）で，平面形は不明。**壁**：やや角度をもって立ち上がる。**床面**：10D覆土中の貼り床である。**周溝**：不明。**カマド**：不明だが，西ないし北に想定。**ピット**：なし。**覆土**：ロームブロックを含む褐色土（20.21.25.26層）が見られ，廃棄時の埋戻し土と考えられる。**遺物出土状態**：33点出土している。遺構の重複関係からみると3.5.7.13.14.17.18が本遺構に関係するか。

０９Ｄ（第２０.２２.２４図・図版３.９.１０）

位置：調査区南東隅。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：N-S方向。**重複関係**：08Dを切る。**規模・平面形**：不明。**壁**：不明。**床面**：ハードローム中。**カマド**：北壁に壁を掘り込んで作られる。ロームブロック・黒色土・灰色粘土を積み上げている。**遺物出土状態**：７点するが，遺構の重複関係からみると本遺構に関係する遺物はないと考える。

１０Ｄ（第２０.２３.２４図・図版９.１０）

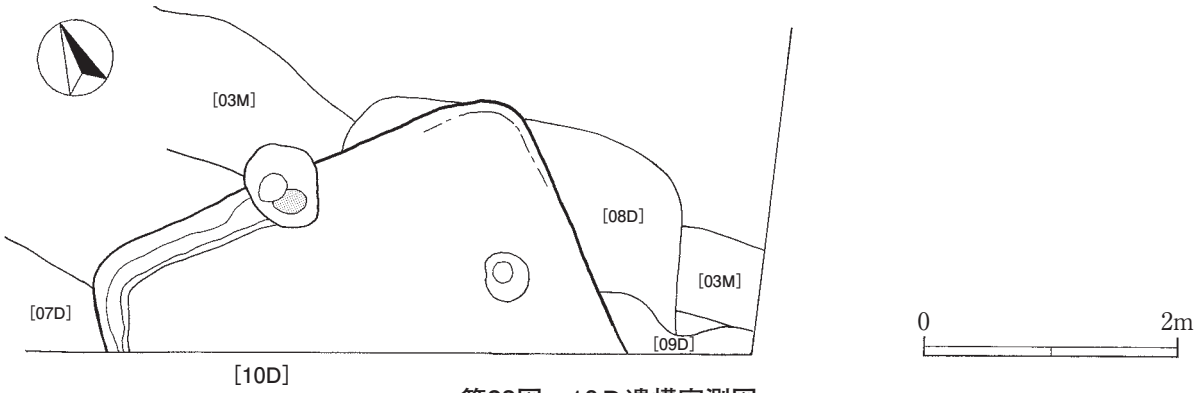
位置：調査区南東隅。**確認面**：Ⅲ層上面。**主軸方位**：N-5°-Wでやや西に振れている。**重複関係**：07Dを切り，08Dに切られる。**規模・平面形**：3.5m×2.2m以上×深さ0.6mで平面形は不明。**壁**：周溝からほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：ハードロームを23㎝程度掘り込み地床とする。**周溝**：部分的に遺存する。幅25㎝で深さ10㎝。**カマド**：北壁に掘り込んで作られるが，火床部のみ遺存する。**ピット**：20㎝の円形で深さ10㎝程度である。覆土は焼土粒・炭化粒混じりの暗褐色土である。**覆土**：ロームブロックを含む黒色土～褐色



09Dカマド土層説明

1：黒褐色土　ローム粒少量。
2：暗褐色土　砂質粘土主体。ロームブロック、焼土粒含む。
3：暗褐色土　ロームブロック、ローム粒、焼土粒混合。
4：暗褐色土　ローム粒多量。ロームブロック、焼土粒、炭化粒少量。
5：暗褐色土　ローム粒少量。
6：黒褐色土　ローム粒、炭化粒少量。
7：暗褐色土　ローム粒多量。
8：暗褐色土　砂、焼土粒、炭化粒各々少量。
9：褐 色 土　ロームブロック、ローム粒多量。焼土粒、炭化粒少量。
10：暗褐色土　ローム粒、炭化粒少量。
11：灰色粘土　砂（カマド構築材）。
12：暗褐色土　ローム粒微量。
13：暗褐色土　ロームブロック、砂、粘土多量。
ローム粒、焼土粒、炭化粒少量。
14：黒褐色土　ロームブロック、ローム粒少量。
15：黒褐色土　締まり強く、粘性ややあり。
16：暗褐色土　ローム粒、焼土粒少量。

第22図　09Ｄ遺構実測図

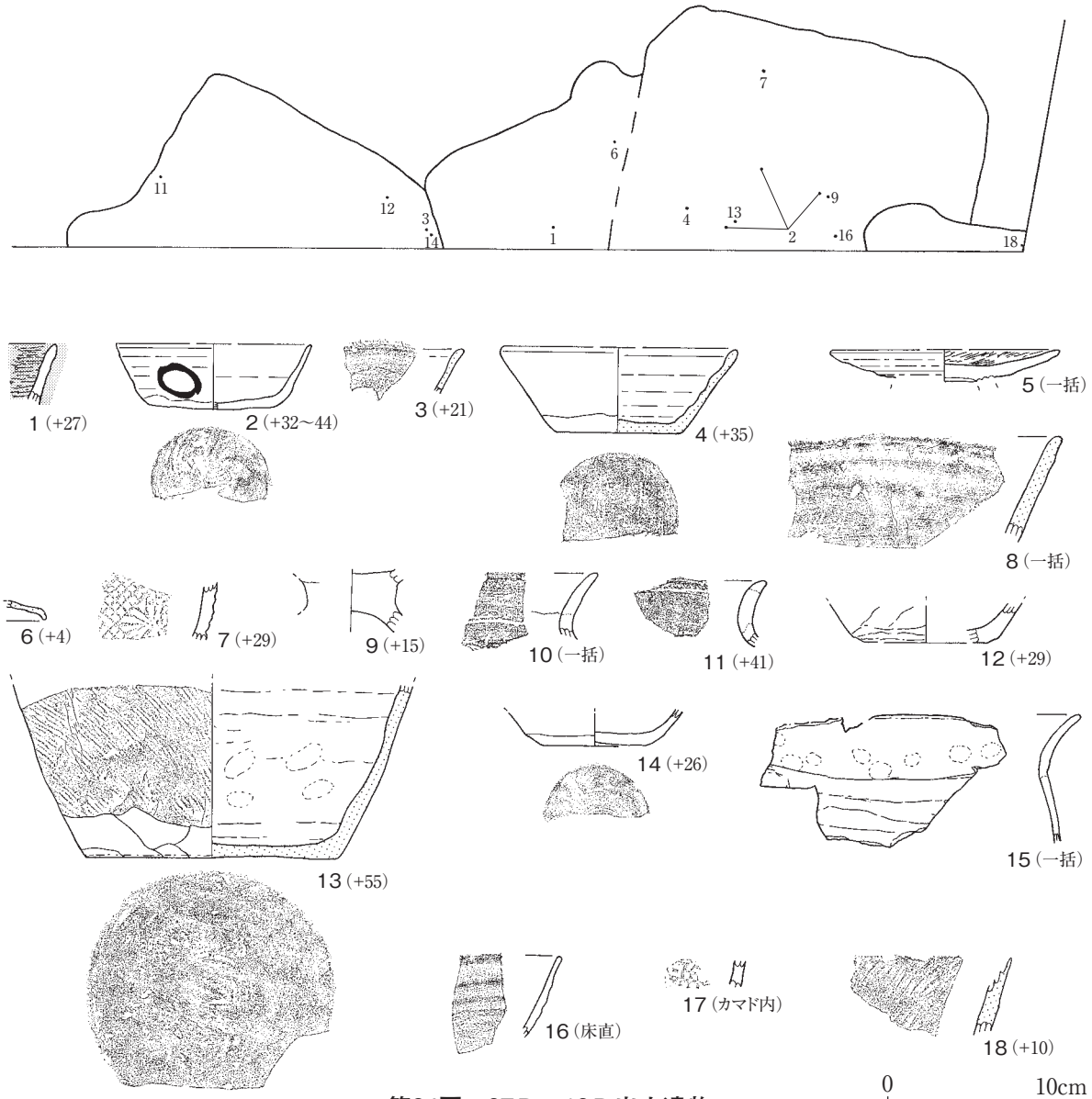


第23図　10Ｄ遺構実測図

土が22.29層において見られ，廃棄時の埋戻し土と考えられる。**遺物出土状態**：14点出土している。遺構の重複関係からみると2.4.8.16が本遺構に関係する遺物か。

07D.08D.09D.10D遺物観察表（１）

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 埦	口縁部1/6	-	-	-	赤茶色	ち密	ロクロ成形。体部外面なで。内面ヘラ磨き。 ロクロ成形後内外赤彩。
2	土師器 坏	口縁部～底部1/3	4.0	11.3	7.3	淡褐色	雲母，赤色粒 砂粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部外面下端回転ヘラ削り。体部内面なで。 体部外面に「○」の墨書。
3	須恵器 坏	口縁部1/6	-	-	-	外黒茶色 内暗褐色	雲母，長石	内外面横位なで。
4	須恵器 坏	口縁部～底部1/4	4.9	13.3	7.3	茶褐色 一部黒斑	雲母，長石 石英	ロクロ成形。切り離し不明。体部外面下端回転ヘラ削り。 体部内面なで。内面ロクロ目顕著。
5	土師器 高台付皿	口縁部～底部1/2	1.8	13.2	-	外淡橙褐色 内橙褐色	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。外面体部下端回転ヘラ削り。内面ち密な 斜方向ヘラ磨き。高台部欠損。



第24図　07D～10D出土遺物

07D.08D.09D.10D遺物観察表（2）

6	須恵器 蓋	口縁部1/6	-	-	-	外黒灰・茶灰色 内青灰色	雲母，石英	ロクロ成形。ロクロなで。
7	土師器 甕	胴部片	-	-	-	暗褐色	長石，石英	放射状，格子状文が表面に施文される。
8	須恵器 鉢	口縁部1/6	-	-	-	灰色	長石，小石粒	内外なで。
9	土師器 高坏	脚部1/2	3.5	5.0	-	外暗褐色 内淡黒色	雲母，長石	内面黒色処理。
10	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	淡赤褐色	長石，黒色粒	内外横なで。
11	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	淡赤褐色	長石，黒色粒	内外横なで。
12	土師器 甕	底部片	2.2	-	7.8	淡茶褐色	雲母，長石 砂粒	胴部外面ヘラ削り。胴部内面なで。
13	須恵器 甕	底部～胴部2/3	9.9	-	14.5	青灰色	長石	胴部外面斜方向平行叩き目文。外面下端斜位 ヘラ削り。胴部内面ヘラなで，指頭圧痕。
14	土師器 坏	体部～底部1/2	2.1	-	6.1	暗褐色 一部黒斑	雲母，長石	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部外面下端回転ヘラ削り。
15	土師器 甕	口縁部～胴部1/3	-	-	-	外淡茶褐色 内茶褐色	雲母，長石 砂粒	胴部外面横位ヘラ削り。胴部内面なで。
16	須恵器 椀	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	雲母，石英	ロクロ成形。体部外面下半ヘラ削り。
17	土師器 甕	胴部片	-	-	-	暗褐色	長石，石英	放射状，格子状文が表面に施文される。
18	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	黒灰褐色	長石	胴部外面縦位平行叩き目文。

第４節　ピット・溝

ピットは，縄文時代の10Pを除外して，10基検出した。この内，奈良平安時代は01P ～03P・06P・08P・09P・11P・12Pの８基で，近世に属するものは05P・07Pの２基である。

溝は５条検出した。01M ～05Mで，いずれも多少の時間差は想定されるものの近世に属すると考える。

０１Ｐ（第２５.２７図・図版１０）

位置：中央。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：N-50°-W。**規模・平面形**：1.45m×0.7m×0.7mの楕円形で中央が深く掘り込まれる。**壁**：上段は緩やかに，下段は垂直に立ち上がる。**底面**：二段　**覆土**：８層に分層（人為的堆積）。**遺物**：覆土中より13点出土。平安時代須恵器甕・土師器埦。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，掘立柱建物掘方を考慮したが，周辺の展開なく用途不明。

０２Ｐ（第２５図）

位置：中央。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：なし。**規模・平面形**：0.7m×0.65m×0.3mの略円形　**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：すり鉢状で平坦面なし。**覆土**：１層（自然堆積）。**遺物**：１点出土。土師器小片。**所見**：出土遺物から，奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

０３Ｐ（第２５図）

位置：西隅。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：なし。**重複関係**：01Dを切る。**規模・平面形**：1.6m×1.6m×0.65mの略円形。**壁**：底面から角度をつけて立ち上がる。**底面**：平坦である。**覆土**：暗褐色土でしまりに欠く。**遺物**：01D出土遺物の第８図11.27.31が本遺構に関係する。**所見**：出土遺物から，平安時代の土坑と判断した。

０５Ｐ（第２５.２７図・図版１０）

位置：中央。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：N-44°-W。**重複関係**：03Mを切る。**規模・平面形**：1.2m×0.75m×0.75mの不整長方形。**壁**：角度をつけて立ち上がる。**底面**：平坦である。**覆土**：暗褐色土でハードロームブロックを含む。しまりに欠く。**遺物**：覆土中より２点出土するが，流れ込みである。**所見**：03Mを切っており，近世の土坑と判断した。用途不明。

０６Ｐ（第２５図）

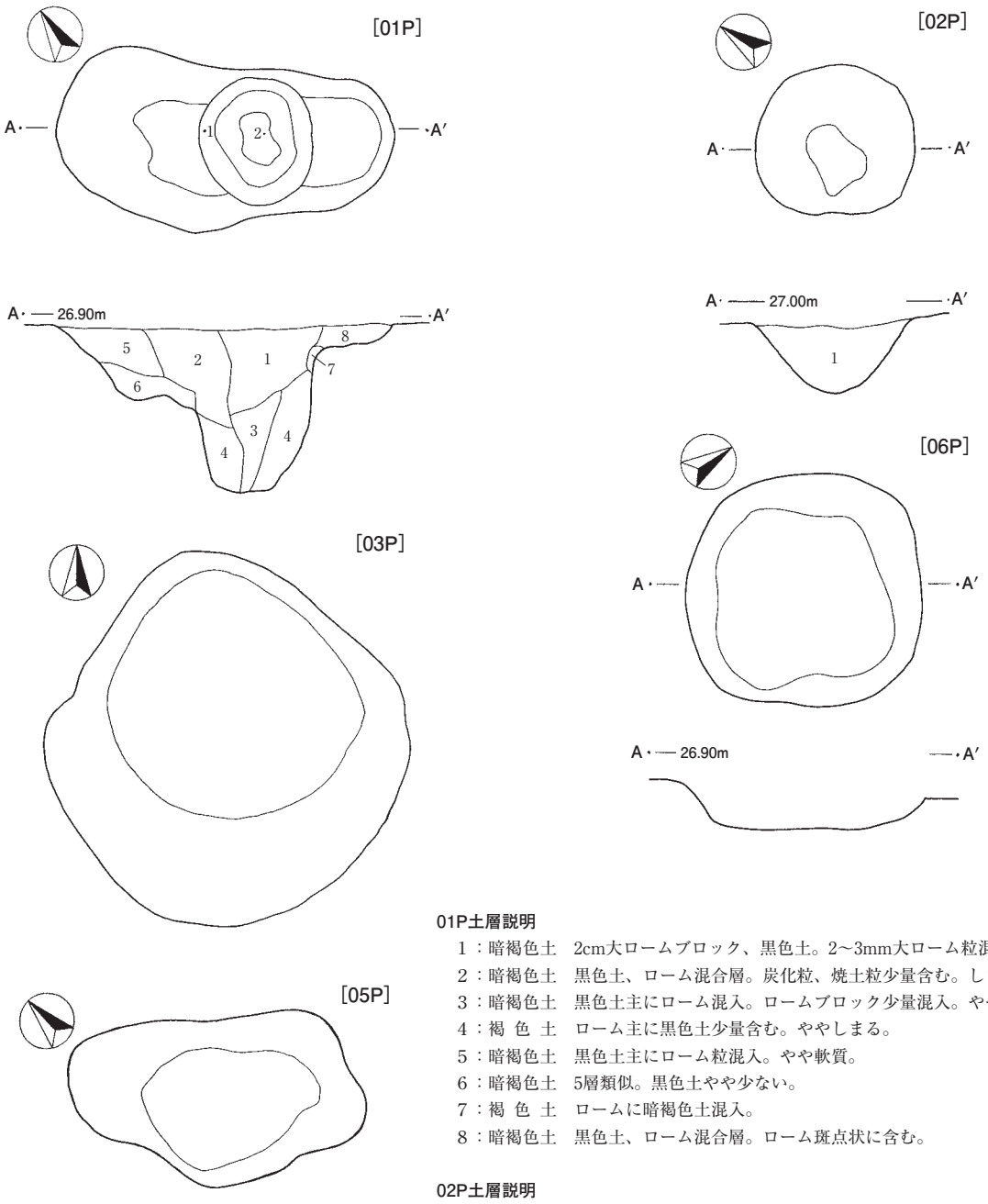
位置：北西隅。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：なし。**重複関係**：01Mに切られる。**規模・平面形**：1.01m×1.0m×0.23mの隅丸方形。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：平坦である。ソフトローム中。**覆土**：黒褐色土でローム粒を斑点状に含む層。自然堆積。**遺物**：覆土中より土師器小片出土。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

０７Ｐ（第２６図）

位置：北西隅。**確認面**：01M調査中。**長軸方位**：N-12°-E。**重複関係**：01Mを切る。**規模・平面形**：1.15m×0.72m×0.4mの長方形。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：平坦で，01M底面を38㎝掘り込む。ハードローム中。**覆土**：黒色土＋ロームブロックの混合土。ややぼそぼそ。**遺物**：底面から成人のものと想定される歯・頭骨・腕骨が出土した。**所見**：01Mを切っており，覆土の状況から，近世ないしそれ以降の墓坑と判断した。

０８Ｐ（第２６.２７図・図版１０）

位置：調査区東中央。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：N-38°-W。**規模・平面形**：1.5m×1.05m×0.4mの楕円形。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：平坦。ハードローム直上。**覆土**：暗褐色土で焼土粒を含む層である。**遺物**：４点出土。平安時代土師器甕片。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。



01P土層説明

1：暗褐色土　2cm大ロームブロック、黒色土。2～3mm大ローム粒混入。しまる。
2：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。炭化粒、焼土粒少量含む。しまる。
3：暗褐色土　黒色土主にローム混入。ロームブロック少量混入。やや軟質。
4：褐　色　土　ローム主に黒色土少量含む。ややしまる。
5：暗褐色土　黒色土主にローム粒混入。やや軟質。
6：暗褐色土　5層類似。黒色土やや少ない。
7：褐　色　土　ロームに暗褐色土混入。
8：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。ローム斑点状に含む。

02P土層説明

1：暗褐色土　ローム、黒褐色土混合層。2mm大ローム粒全体に含む。

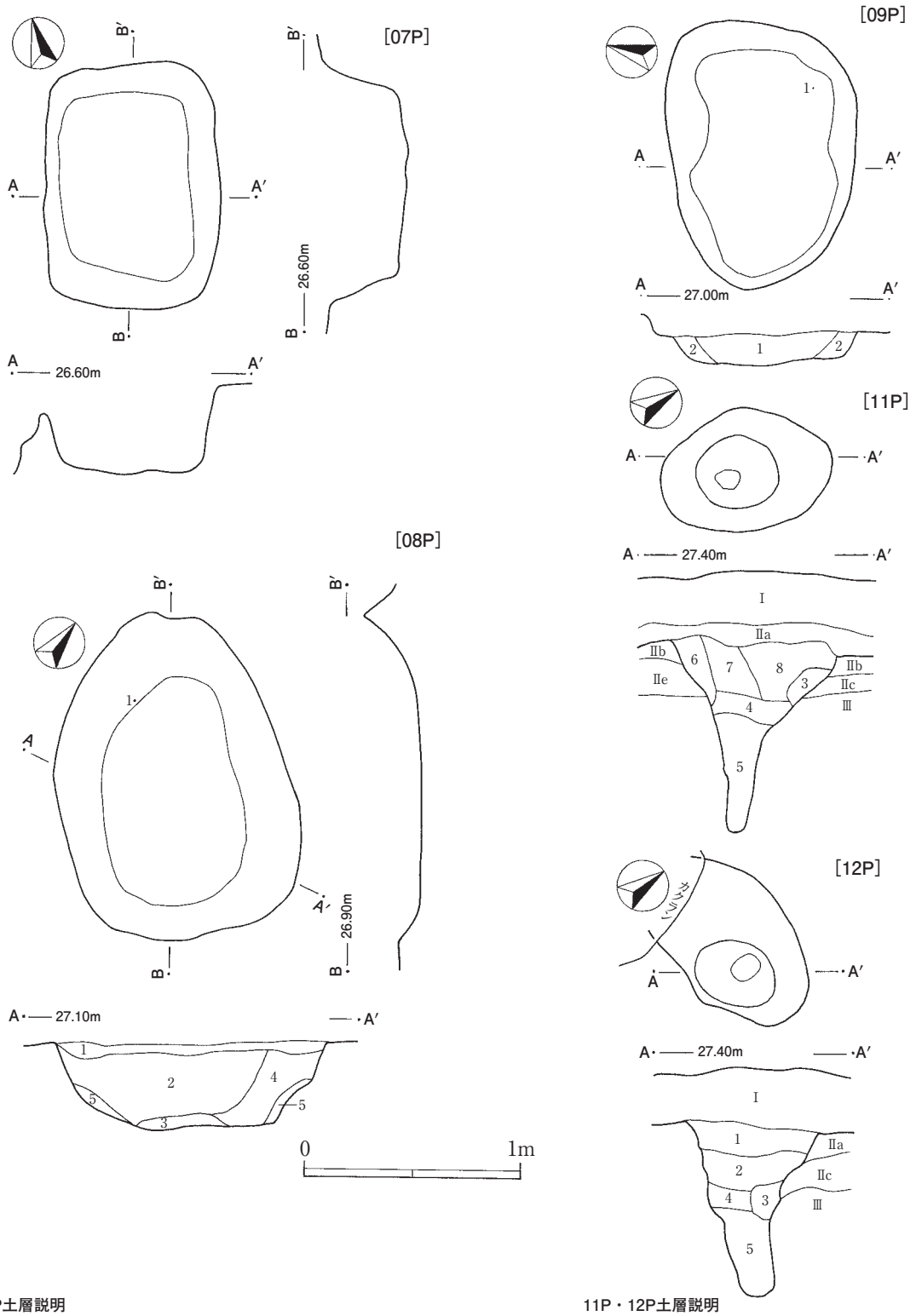
第25図　01Ｐ～06Ｐ遺構実測図　0　1m

０９Ｐ（第２６.２７図・図版４.１０）

位置：調査区中央。**確認面**：Ⅱc層　**長軸方位**：N-75°-E。**規模・平面形**：1.3m×0.85m×0.15mの楕円形。**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：平坦である。**覆土**：黒色土混じりの暗褐色土で自然堆積。**遺物**：覆土中より７点出土。**所見**：出土遺物から奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

１１Ｐ（第２６図・図版４）

位置：北東隅。**確認面**：Ⅱc層　**長軸方位**：N-18°-E。**規模・平面形**：0.8m×0.55m×0.85mの楕円形。**壁**：柱状に深く掘られる。**底面**：平坦面はない。ハードロームを20～30㎝掘り込む。**覆土**：暗褐色土でローム



08P土層説明

1：暗褐色土　ローム、炭化物混入。カクラン。
2：暗褐色土　ローム、黒色土混合。焼土ブロック、焼土粒混入。しまる。
3：暗褐色土　ローム、黒色土混合。焼土粒ごく少量混入。しまる。
4：暗褐色土　2層類似。ローム粒割合多い。しまる。
5：暗褐色土　ローム主に暗褐色土含む。しまる。

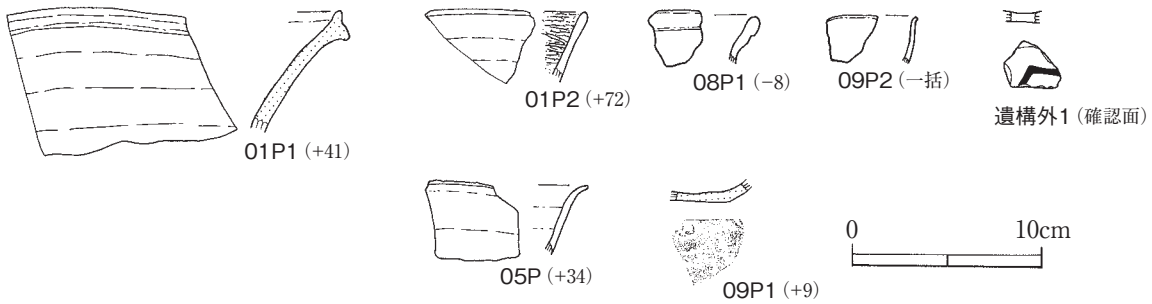
09P土層説明

1：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。黒色土やや多い。しまる。
2：褐　色　土　ローム主体。黒色土粒少量含む。

11P・12P土層説明

1：暗褐色土　焼土粒、炭化粒混入。
2：暗褐色土　焼土粒、ローム粒混入。1層類似。
3：褐　色　土　ローム土に黒色土少量混入。
4：褐　色　土　ローム土。
5：暗褐色土　ローム粒、黒色土粒混合。やや軟質。
6：暗褐色土　ローム粒、暗褐色土混入。ややしまる。
7：暗褐色土　暗褐色土にローム粒少量混入。
8：暗褐色土　7層類似。暗褐色土やや少ない。

第26図　07Ｐ～12Ｐ遺構実測図



第27図　ピット出土遺物

01P遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 甕	口縁部片	-	-	-	外青灰色 内淡灰色	長石，黒石粒	ロクロ成形。胴部内外なで。
2	土師器 椀	口縁部片	-	-	-	外淡褐色 内淡黒色	雲母，長石	ロクロ成形。ロクロなで。体部内面横位ヘラ磨き。

05P遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 椀	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	長石，石英	ロクロ成形。

08P遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	長石，石英 砂粒	ロクロ成形。複合口縁。

09P遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏	底部片	-	-	-	青灰色	雲母，長石	切り離し不明。体部下端横位ヘラ削り。
2	土師器 椀	口縁部片	-	-	-	黒灰色	長石，砂粒	ロクロ成形。口唇部玉縁状。

遺構外遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	底部片	-	-	-	橙褐色	雲母，白色粒	底部回転糸切り離し。底部外面墨書。

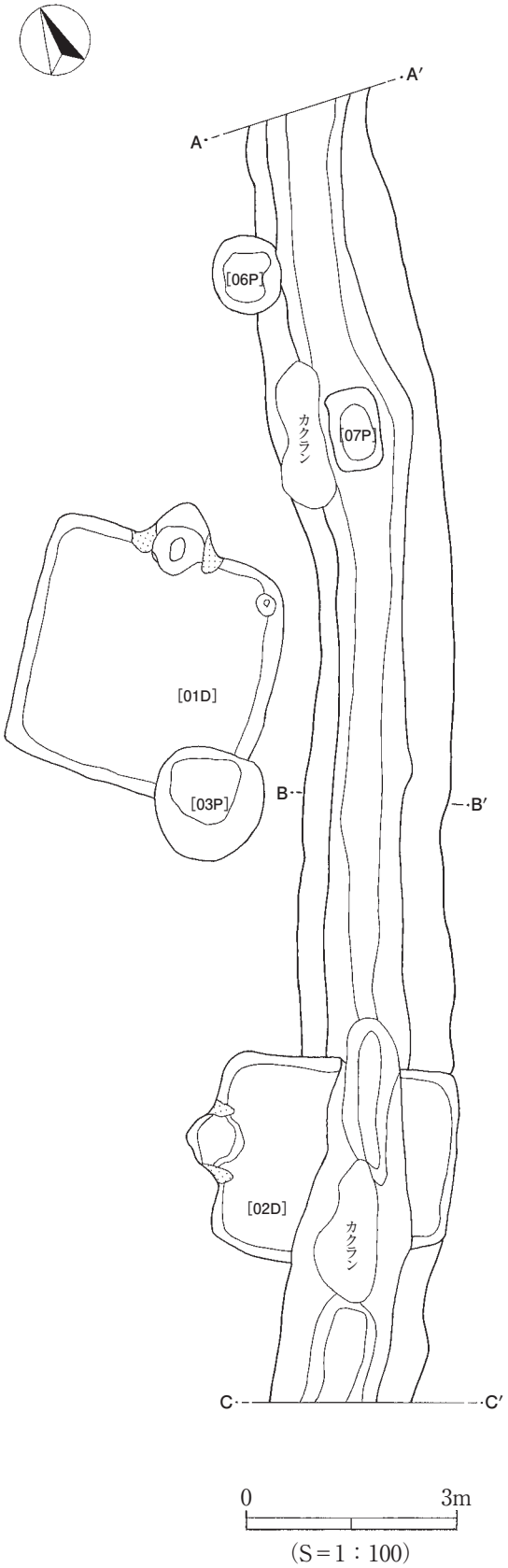
粒を多く含む層。自然堆積か。**遺物**：覆土上面より土師器小片出土。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

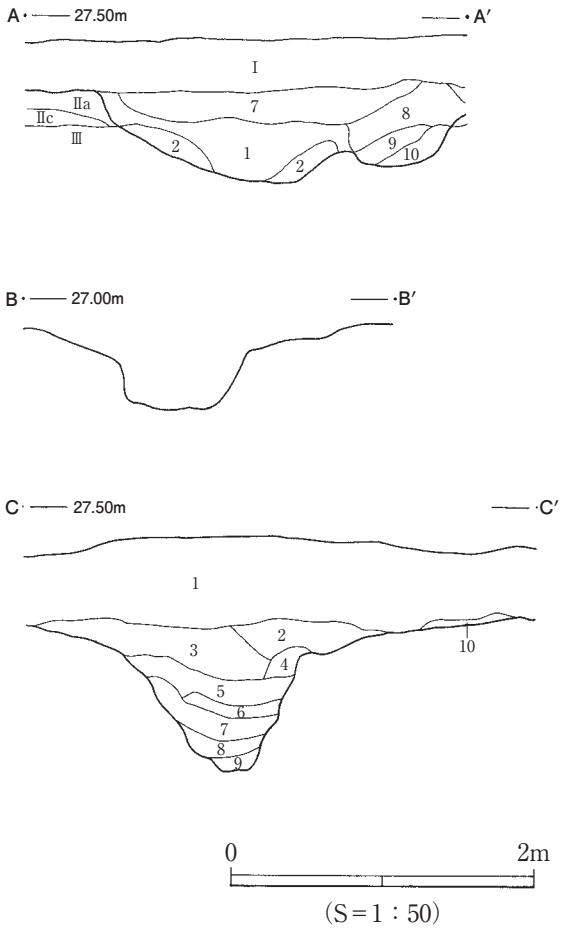
１２Ｐ（第２６図・図版４）

位置：北東隅。**確認面**：Ⅱc層。**長軸方位**：S-82°-W。**規模・平面形**：0.9m（想定）×0.55m×0.8mの楕円形。**壁**：柱状に深く掘られる。**底面**：平坦面はない。ハードロームを20～30㎝掘り込む。**覆土**：暗褐色土でローム粒を多く含む層。自然堆積か。**遺物**：覆土上面より土師器小片出土。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，奈良平安時代の土坑と判断した。用途不明。

０１Ｍ（第２８.２９図・図版３.１０）

位置：調査区西側。**確認面**：Ⅱc層。**重複関係**：06Pと02Dを切り，07Pに切られる。**規模等**：全長18.5m×幅2.2m×深さ0.4～0.8m。**壁面**：薬研堀断面の形状で，両サイドは0.4～0.6mの浅い掘り込みで，内側は幅１m程度で深く掘り込んでいる。**底面**：02D北側では，比較的平坦でハードロームを35～55㎝掘り込む。南側では，掘り返しがみられ，さらに60㎝程度掘り込む底面は凹凸が著しい。**覆土**：北側では黒色土混じ





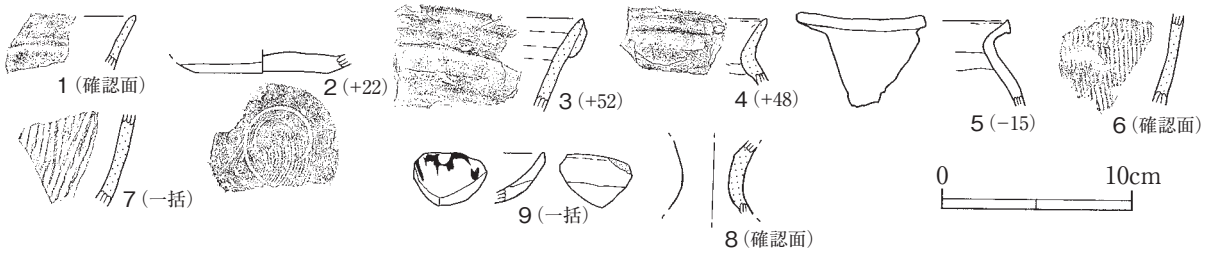
01M土層説明（A－A′）

1：暗褐色土　黒色土主にローム粒混入。
2：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。1cm大ロームブロック混入。
7：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。2～3mm大ローム粒混入。
8：黒褐色土　カクラン。ローム粒少量混入。
9：暗褐色土　カクラン。ローム、黒色土混合。ローム粒やや多い。
10：褐 色 土　カクラン。ローム主に黒色土少量混入。

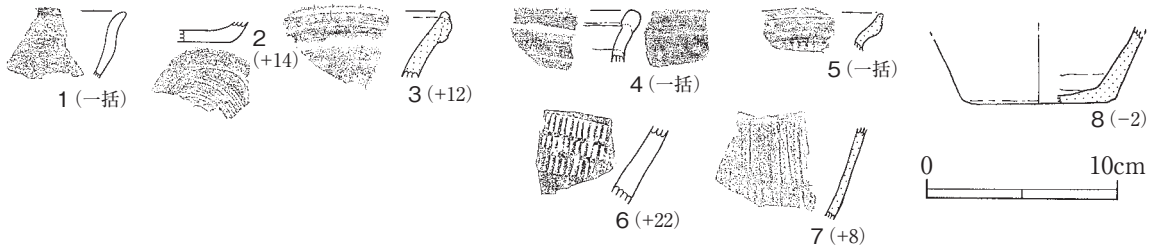
01M土層説明（C－C′）

1：暗褐色土　耕作土。2mm大ローム粒散在。
2：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。2～3mm大ローム粒散在。
3：暗褐色土　2層類似。3～10mm大ロームブロック全体に含む。
4：暗褐色土　黒色土主にローム粒含む。3～10mm大ロームブロック含む。
5：暗褐色土　黒色土、ローム混合。3～5mm大のローム粒を4層より多く含む。
6：暗褐色土　5層類似。黒色土やや多い。
7：黒褐色土　黒色土にローム混合。3～5mm大ローム粒含む。
8：黄褐色土　ロームブロック主に黒色土混入。
9：黄褐色土　ロームブロックに褐色土混入。
10：褐 色 土　ローム漸移層。

第28図　01M遺構実測図



第29図　01M出土遺物



第30図　02M出土遺物

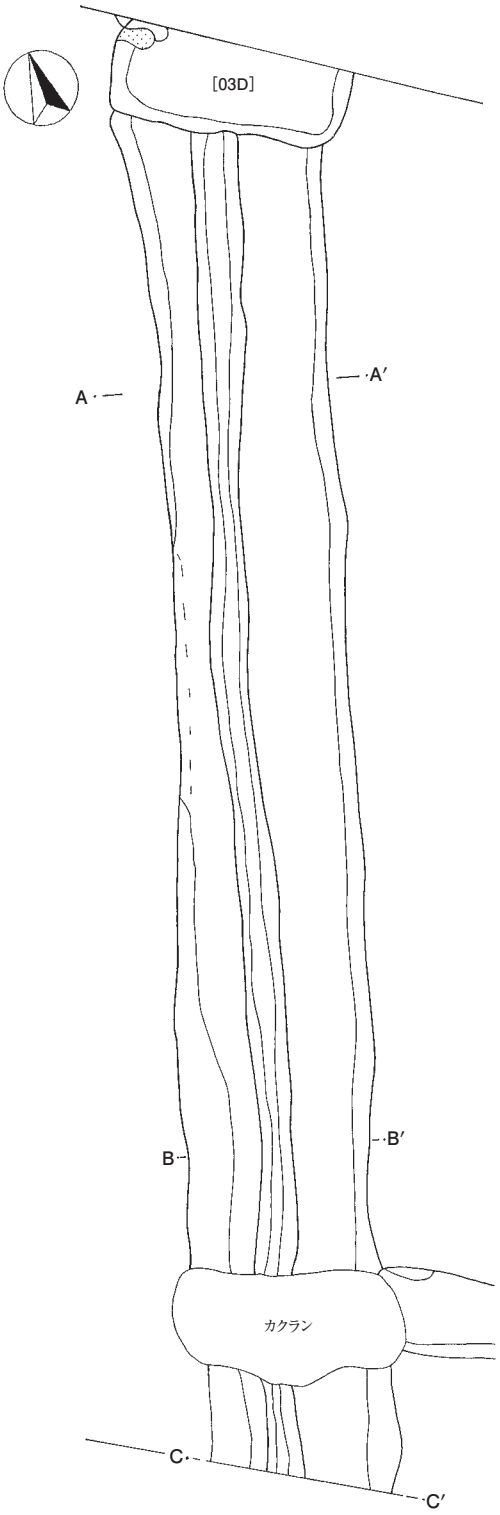
01M遺物観察表

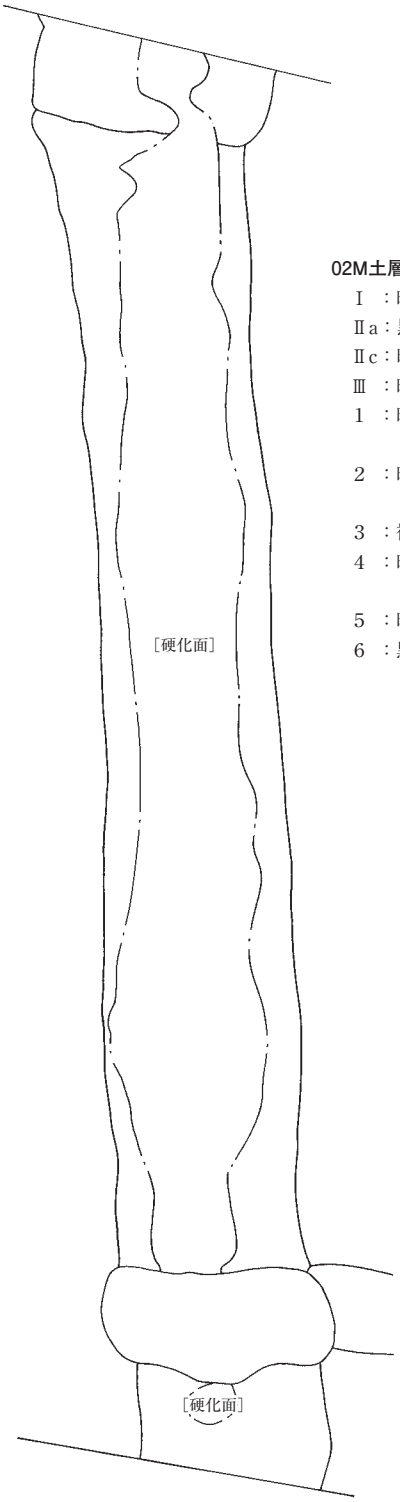
	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 坏	口縁部片	-	-	-	灰青色	長石	ロクロ成形。
2	土師器 坏	底部2/3	1.0	-	7.0	外淡茶褐色 内黒褐色	長石，赤色粒	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁回転ヘラ削り。 体部下端回転ヘラ削り。体部内面黒色処理後ヘラ磨き。
3	須恵器 甕	口縁部1/5	-	-	-	暗茶色	長石，赤色粒	ロクロ成形。口縁部横なで。
4	須恵器 甕	口縁部片	-	-	-	外暗灰色 内淡橙灰色	長石，赤色粒	ロクロ成形。口縁部横なで。胴部外面縦位ヘラ削り。 胴部内面頸部ヘラなで。
5	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	茶褐色 一部黒斑	長石	口縁部横なで。胴部内外なで。
6	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	黒灰褐色	雲母，長石	外面縦位平行叩き目。
7	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	黒灰褐色	雲母，長石 赤色粒	外面縦位平行叩き目。 内面ロクロなで。
8	須恵器 細頸壺	頸部1/2	-	-	-	淡青灰色	ち密	内面上部に自然釉。 頸部接合痕。
9	土師質 灯明皿	口縁部片	-	-	-	淡橙褐色	ち密	内面芯末端の煤付着。

02M遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 坏	体部片	-	-	-	茶褐色	長石，赤色粒	体部外面ヘラ削り。
2	土師器 坏	底部1/4	-	-	-	暗褐色	雲母，長石	ロクロ成形。底部回転糸切り離し後周縁手持ち ヘラ削り。
3	須恵器 甕	口縁部1/5	-	-	-	橙褐色	長石	ロクロ成形。胴部内外ロクロなで。
4	土師器 甕	口縁部片	-	-	-	淡褐色	長石，小石粒	ロクロ成形。ロクロなで。
5	須恵器 甕	口縁部片	-	-	-	灰褐色	長石	ロクロ成形。胴部内外ロクロなで。
6	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	外赤茶色 内淡茶灰色	ち密	近世陶器甕（常滑）。
7	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	外赤褐色 内黒灰色	長石	胴部外面縦位平行叩き目文。
8	須恵器 甕	底部1/5	4.4	-	8.1	外黒褐色 内橙褐色	長石	胴部内面ヘラなで。二次焼成による剥離痕顕著。

りの暗褐色土でよく締まる層で自然堆積。南側ではロームブロック混じりの暗褐色土で，しまりなく埋戻し層か。**遺物**：覆土中より奈良平安時代土器片が出土しているが，流れ込みの遺物である。出土遺物の下限を示す第29図９が本遺構に関係する。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，近世の溝と判断した。また，07Pとの関係からやや古い溝として考える。

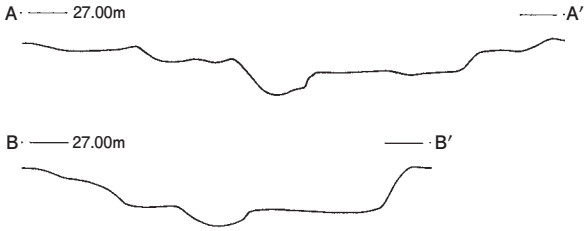


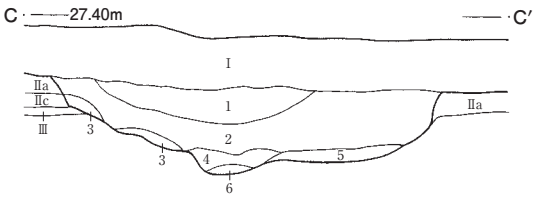


02M土層説明

Ⅰ：暗褐色土　耕作土。2～3mm大ローム粒点在。
Ⅱa：黒褐色土　腐植土層。自然層。
Ⅱc：暗褐色土　ローム、黒色土混合。自然層。
Ⅲ：暗黄褐色土　ソフトローム層。
1：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。2～3mm大ローム粒点在。
2：暗褐色土　1層類似。黒色土やや少ない。2～3mm大ローム粒点在。
3：褐色土　ロームに暗褐色土含む。
4：暗褐色土　ローム、黒色土混合層。非常に硬化する。
5：暗褐色土　4層類似。やや硬化する。
6：黒褐色土　ローム粒少量混入。

0　3m
（S＝1：100）





0　2m
（S＝1：50）

第31図　02M遺構実測図

０２Ｍ（第３０.３１図・図版４.１０）

位置：調査区中央やや西側。**確認面**：Ⅱc層。**重複関係**：03Dを切る。**規模等**：全長18.75m×幅2.4m×深さ0.4～0.6m。**壁面**：薬研堀断面の形状で，西側壁面では緩く掘り込まれ，東側壁面では角度をつけて掘り込まれている。底面中央では幅50cm程度でさらに10～15cm深く掘り込まれる。**底面**：当初は底面中央の掘り込みが機能したが，黒色土で掘り込みを埋め，溝底面を道路として再使用していることが硬化面から想定される。**覆土**：黒色土混じりの暗褐色土でよくしまる層で自然堆積。**遺物**：覆土中より奈良平安時代土器片が160点出土するが，流れ込みの遺物である。第30図６が本遺構に関係する。**所見**：出土遺物および覆土の状況から，近世の溝と判断した。

０３Ｍ（第３２図・図版１０）

位置：調査区南側中央から東隅。**確認面**：Ⅱc層。**重複関係**：05D.06D.08D.10Dを切り，05Pに切られる。**規模等**：全長19.7m×幅0.9～1.4m×深さ0.5m。**壁面**：両サイドとも緩く掘り込まれる。**底面**：西側で部分的に掘り込まれるが概して平坦である。**覆土**：黒色土混じりの暗褐色土でよくしまる層で自然堆積。**遺物**：覆土中より奈良平安時代土器片が200点出土するが，流れ込みの遺物である。**所見**：時期の下限を示す遺物は出土していないが覆土の状況から，近世の溝と判断した。

０４Ｍ（第３２図・図版４）

位置：調査区南側。**確認面**：Ⅱc層。**重複関係**：07Dを切る。**規模等**：全長９m×幅0.7m×深さ0.2m。**壁面**：北側壁面では緩く掘り込まれ，南側壁面では角度をつけて掘り込まれている。**底面**：概して平坦である。**覆土**：黒色土混じりの暗褐色土でよくしまる層で自然堆積。**遺物**：覆土中より奈良平安時代土器片が５点出土しているが，流れ込みの遺物である。**所見**：03Mに沿うようにみられることや覆土の状況から，近世の溝と判断した。

０５Ｍ（第３３図・図版４.１０）

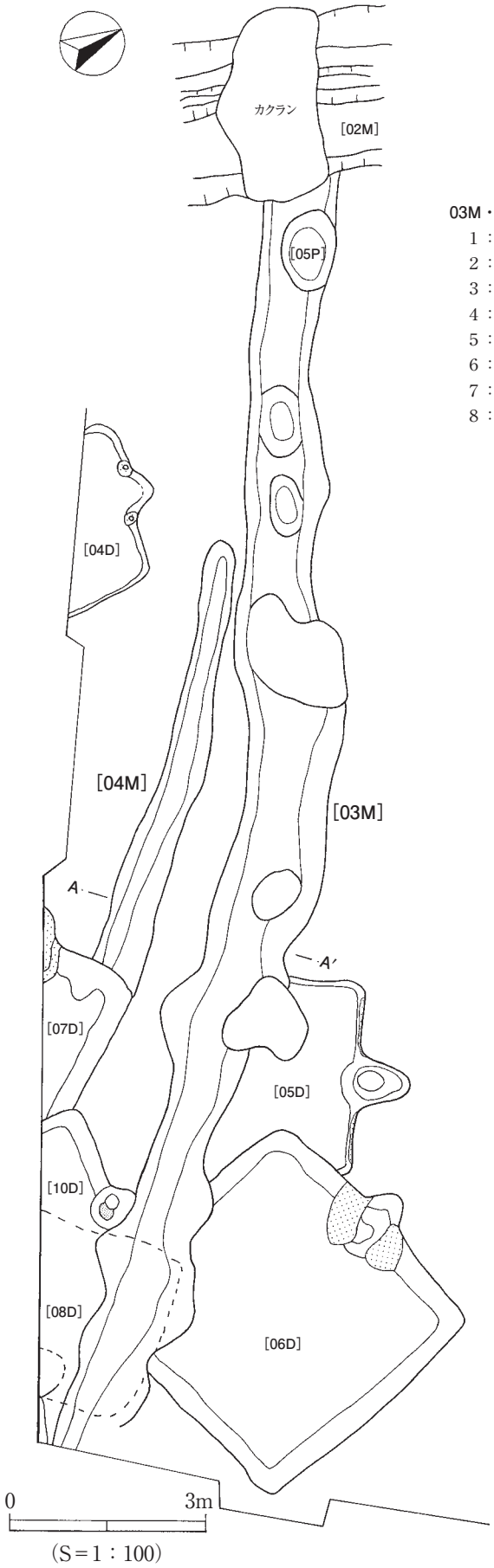
位置：調査区北東隅。**確認面**：Ⅱc層。**規模等**：部分的検出であり，深さのみ0.6m。**壁面**：底面から角度をもって立ち上がる。**底面**：２か所の掘り込みがみられるが，詳細不明である。**覆土**：黒色土混じりの暗褐色土でよくしまる層を確認した。自然堆積。**遺物**：覆土中より奈良平安時代土器片が15点出土しているが，流れ込みの遺物である。**所見**：覆土の状況から，近世の溝と判断した。

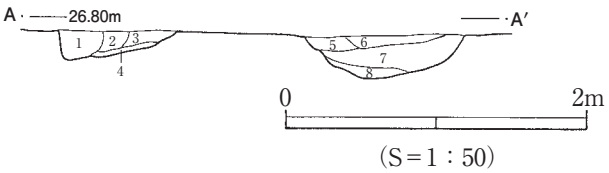
03M遺物観察表

	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 埦	口縁部 ～体部1/5	-	-	-	淡橙褐色	長石，砂粒	ロクロ成形。 ロクロなで。
2	土師器 埦	口縁部 ～体部1/5	-	-	-	外淡橙褐色 内暗茶褐色	長石	ロクロ成形。 内面ヘラ磨き。
3	須恵器 坏	口縁部 ～体部1/5	-	-	-	淡灰色	長石	ロクロ成形。 ロクロなで。
4	須恵器 坏	底部1/2	-	-	8.1	暗褐灰色	長石，赤色粒	体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り離し後 未調整。内面ロクロなで。
5	須恵器 蓋	口縁部片	-	-	-	淡灰色	雲母	外面天井部回転ヘラ削り。 ロクロなで。
6	須恵器 甕	口縁部1/3	-	-	-	暗茶褐色	雲母，長石 砂粒	ロクロ成形。 ロクロなで。
7	土師器 甕	口縁部1/5	-	-	-	淡橙褐色	長石，砂粒	口辺部横なで。常陸型。
8	須恵器 坏	底部全周	1.0	-	6.8	暗灰褐色	雲母，長石 赤色粒	ロクロ成形。外面底部手持ちヘラ削り。 内面ロクロ目明瞭。
9	石製品		縦 4.2	横 3.5	高 0.8	重さ 21.6		石製模造品の未成品。荒割ないし形割段階。滑石製。 有孔円板ないし勾玉形。

05M遺物観察表

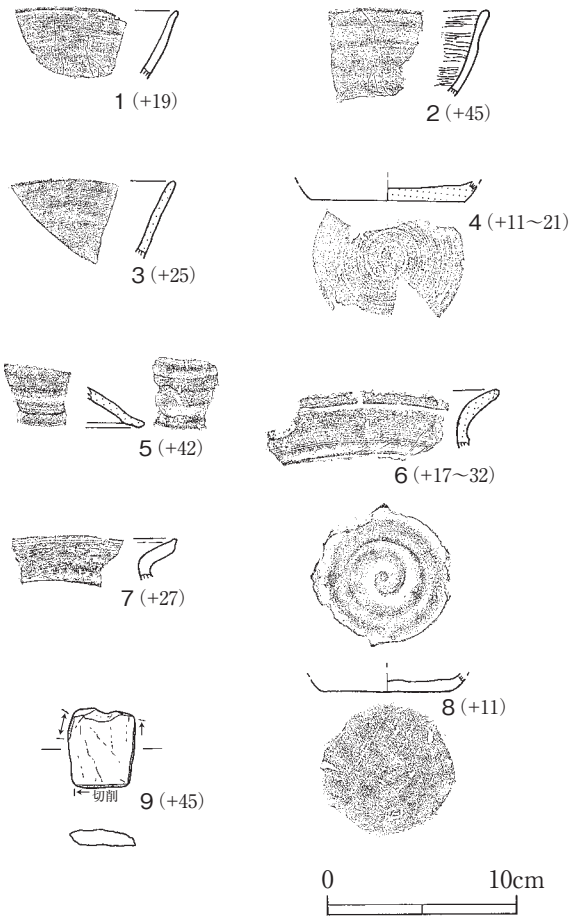
	器種	部位	計測値（cm）			色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	須恵器 甕	胴部片	-	-	-	淡灰色	雲母，長石 石英	胴部外面縦位平行叩き目文。



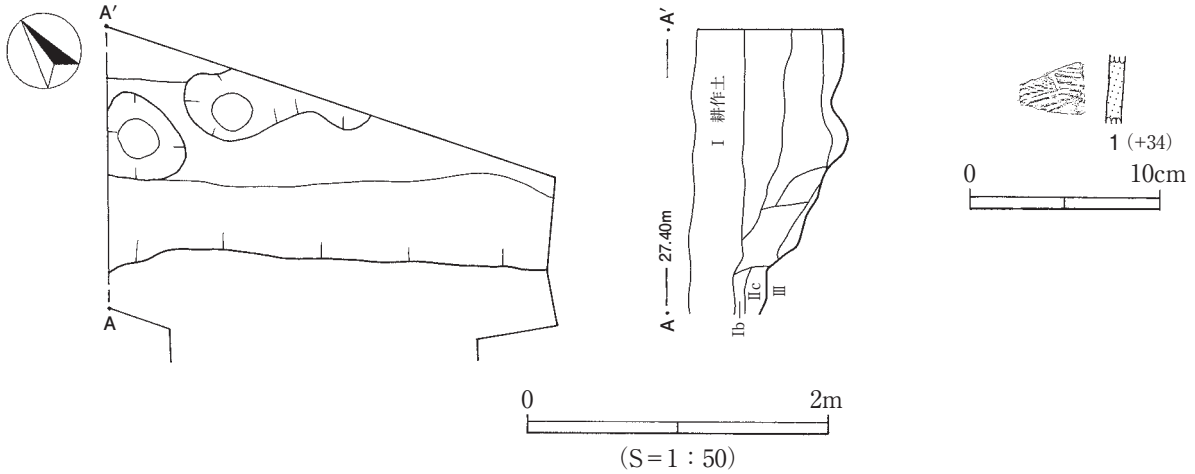


03M・04M土層説明

1：黒褐色土　黒色土、ローム混合層。
2：暗褐色土　1層類似。ローム粒やや多い。
3：黒褐色土　1層類似。部分的にロームブロック含む。
4：褐 色 土　ローム主に黒色土少量含む。
5：暗褐色土　黒色土、ローム混合層。2～3mm大ローム粒混入。
6：暗褐色土　5層類似。ローム粒の割合多い。
7：黒褐色土　5層類似。黒色土の割合多い。
8：黄褐色土　5層類似。3～5mm大ローム粒混入。



第32図　03M04M遺構実測図・出土遺物



第33図　05M遺構実測図・出土遺物

第３章　まとめ

第１節　旧石器時代

出土した縦長剥片は，その属性および石材から，萱田遺跡群の「Ⅳ～Ⅴ期」[1] に想定される。本来的な産出層準は，立川ロームⅣ・Ⅴ層中となろうか。なお，ｂ地点では掻器（黒曜石）、槍先形尖頭器（黒色緻密安山岩）を検出しており，萱田遺跡群「Ⅴ期」との想定がなされている。

１）千葉県の歴史　資料編　考古１（旧石器・縄文時代）

第２節　縄文時代

縄文時代後期（堀之内１式）の土坑１基を検出したが，用途の特定には至らなかった。また，縄文時代中期の土器片も検出したが，出土量や出土状況に特性は認められなかった。

以上のことから，縄文時代において「殿内小支台は，居住域として利用されることが極めて稀であった」[1] との評価を追認し，支持をしたい。なお，今調査で確認された堀之内期の活動痕跡は，既に近隣遺跡において，当該土器の検出として微増する。とりわけ，白筋遺跡ｂ地点[2] の堀之内１式土器（南東北の綱取系；両耳壺あるいは注口付き土器の口縁部片）は，市内の定点土器と位置付けられる。

１）八千代市教育委員会　2009　『殿内遺跡ｂ地点－公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－』

２）八千代市教育委員会　2008　『白筋遺跡ｂ地点発掘調査報告書』

第３節　奈良・平安時代

今回の調査において，本遺跡エリアの様相が少しずつ把握可能となってきた。検出された竪穴建物を時期で示すと以下のとおりである。

①８世紀前半（萱田Ⅰ期以前）・・・07Ｄ

②８世紀中ば（萱田Ⅱ期）・・・・・03Ｄ・06Ｄ

③８世紀後半（萱田Ⅲ期）・・・・・10Ｄ

④９世紀初頭（萱田Ⅳ期）・・・・・02Ｄ

⑤９世紀前半（萱田Ⅴ期）・・・・・01Ｄ

⑥９世紀中ば～後半（萱田Ⅵ期）・・08Ｄ

⑦10世紀前半（萱田Ⅷ期）・・・・・05D

⑧10世紀後半（萱田Ⅸ期）・・・・　04D・09D？

同一遺跡内のｂ地点においては，奈良時代初頭の８世紀前半前後に集住がみられ，古墳時代以降からの「自然村落」の様相を示している。８世紀代は同様の経過をたどるが，９世紀に入ると集落規模が縮小し，10世紀に再び集住化している。10世紀は律令解体期にあたるため，周辺の村上込ノ内遺跡・白幡前遺跡・上谷遺跡においては竪穴建物が激減する時期である。ここにおいて，集落経営上の人の移動が考えられる。殿内遺跡の人々は，「計画村落」である上記の遺跡へ動員されたのではないだろうか。そして，ムラの終焉をむかえて，帰村したとも考えられる。今回の調査では，ｂ地点への資料補強ができたことが成果である。

遺物では，01D出土の墨書土器で，横位「子春」が，村上込ノ内遺跡においても見られる。遺跡を違えての同名墨書は興味深い。

参考文献　1975　財団法人千葉県都市公社「八千代市村上遺跡群」

2009　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　殿内遺跡ｂ地点　－公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－」

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし　とのうちいせきいーちてん
書名	千葉県八千代市殿内遺跡ｅ地点
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	森　竜哉
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL 047（483）1151代表
発行年月日	平成30年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とのうちいせきｅちてん 殿内遺跡ｅ地点	むらかみあざとのうち 村上字殿ノ内1579番10他	12221	203	35度 43分 46秒	140度 ７分 ３秒	20170220 ～ 20170707	上層706.57	宅地造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
殿内遺跡ｅ地点	集落跡	旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良平安時代	奈良平安時代竪穴建物跡10棟 同時代ピット８基 近世溝５条・同ピット２基	旧石器時代剥片 縄文土器（中後期） 奈良平安時代土師器・須恵器	
要　　約	調査において，奈良平安時代の竪穴建物跡10棟が検出された。本調査が実施されたａ地点・ｂ地点においても，主体となる時期は当該期であり，本遺跡の土地利用が部分的ではあるが明らかとなった。 時期的には，８世紀前半～・９世紀後半の各時期及び10世紀代に集住の画期がみられる。				

図版１遺構［遺跡全景・01D・02D］

全景

全景

01D遺物出土状況

01D出土遺物

01D床面精査状況

02D遺物出土状況

02D遺物No.1.3

02D床面精査状況

02D全景

03D全景

03D遺物出土状況

04D遺物出土状況

04D全景

05D遺物出土状況

05Dカマド遺物出土状況

05D全景

図版３遺構［05D・06D・07D・09D・01M］

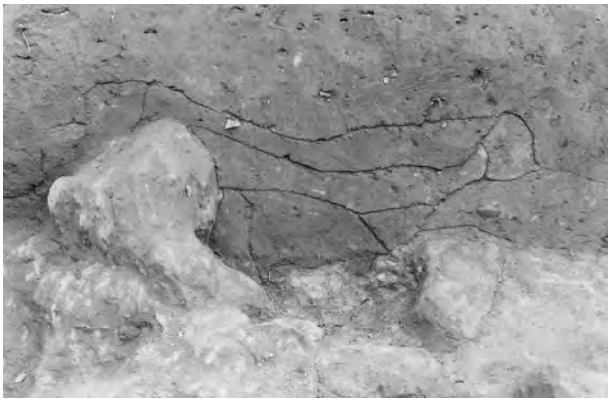
05Dカマド全景

06D全景

06D全景

07D遺物出土状況

07D全景



09Dカマドセクション

01M遺物出土状況

01M全景

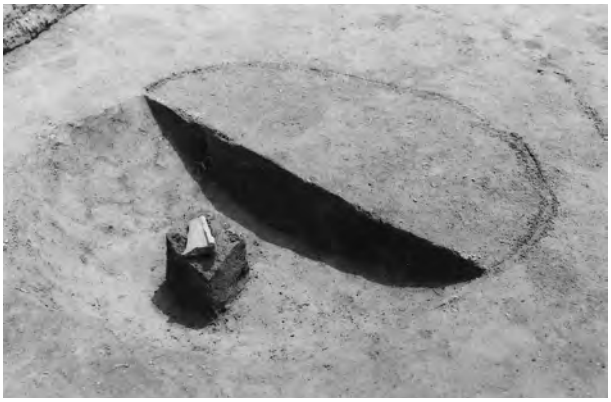
02M全景

02M遺物出土状況

04M全景

05M全景

09P全景

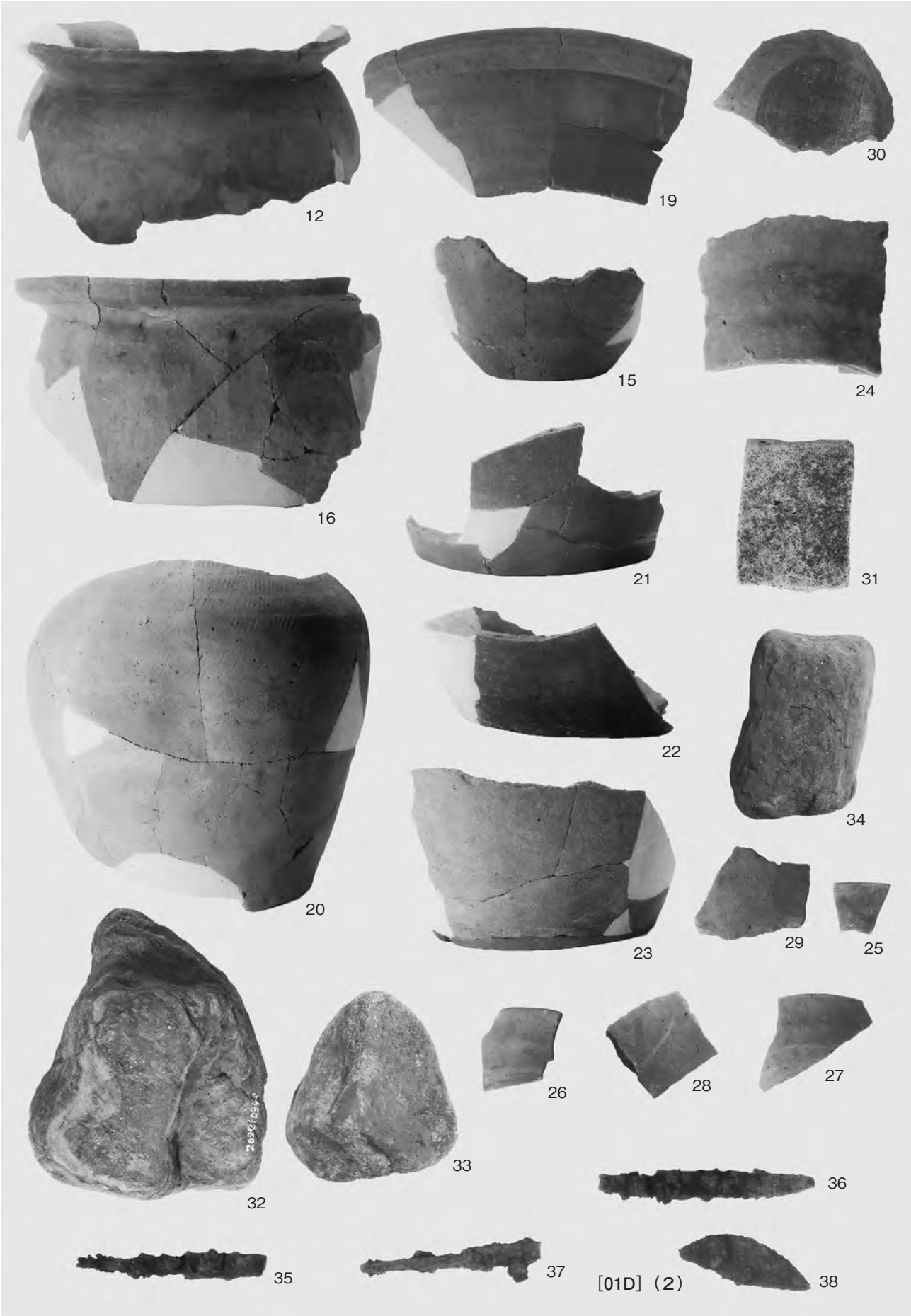


10P遺物出土状況

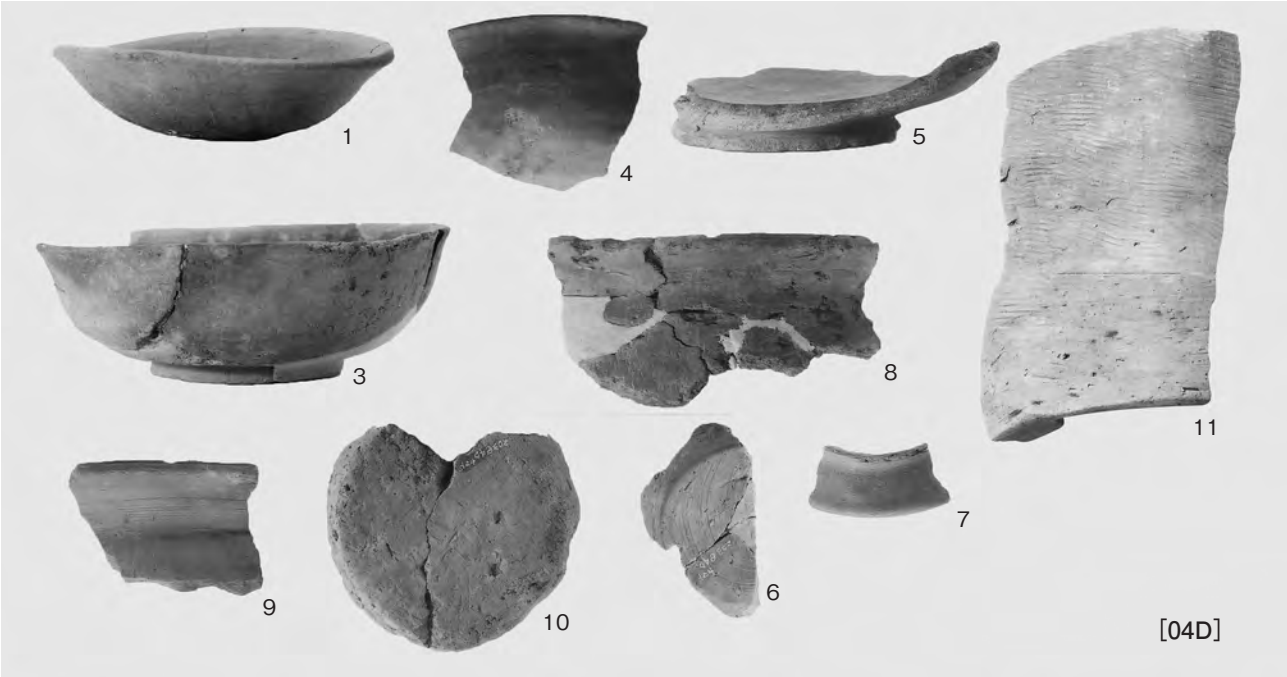
11P全景

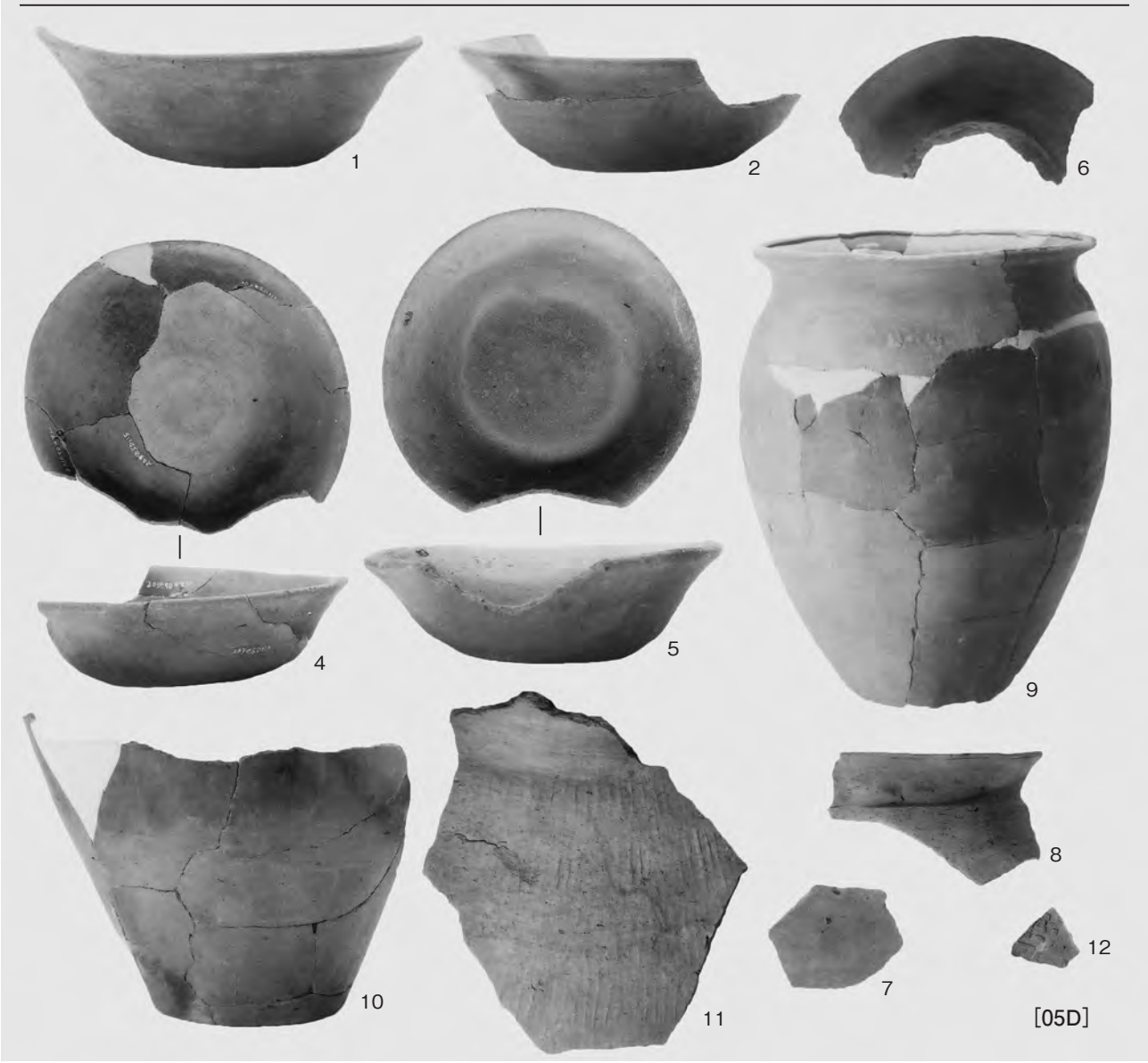
12P全景

図版５遺物［旧石器・縄文・01D（１）］

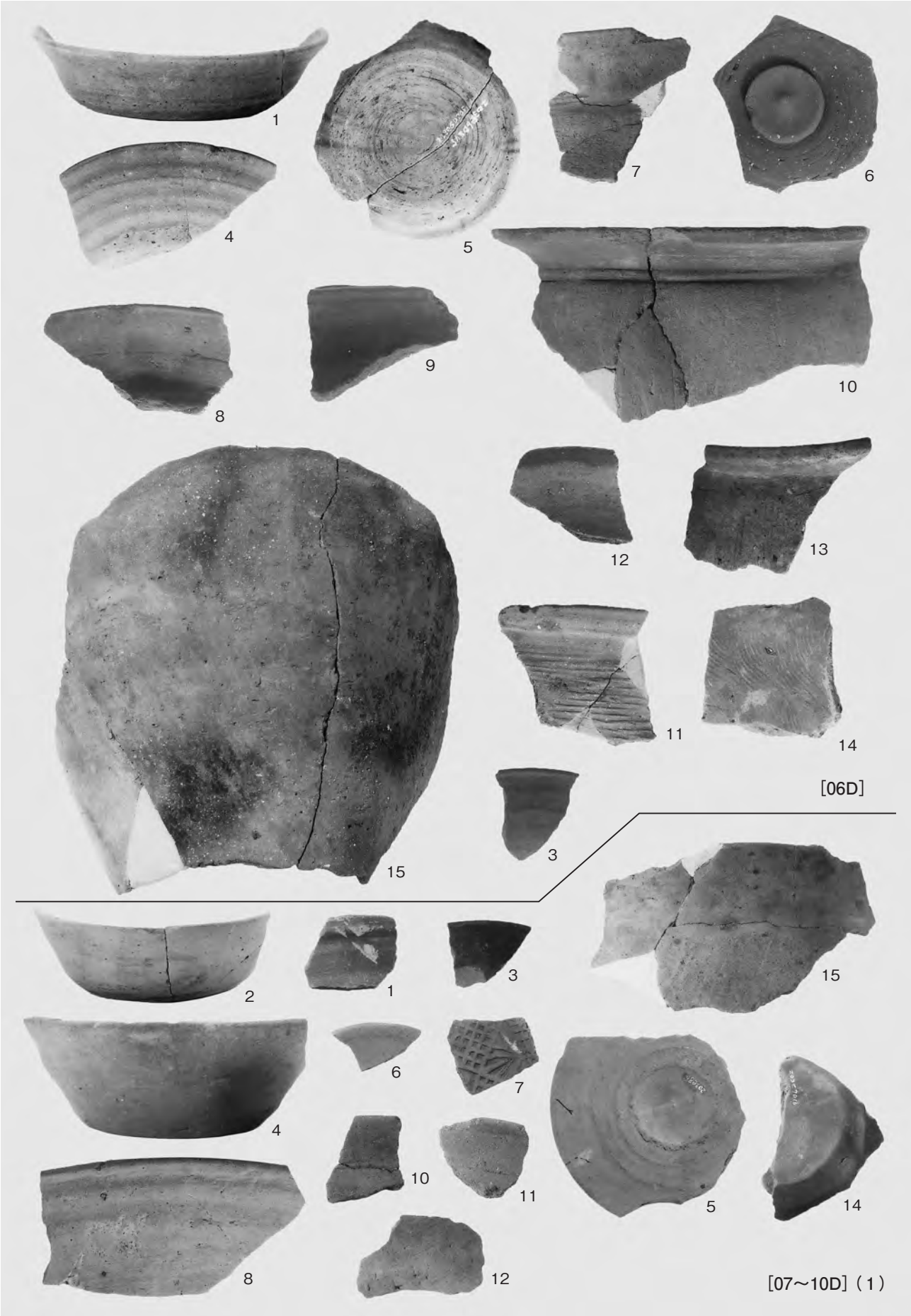

12
19
30
15
24
16
21
31
20
22
34
23
29
25
26
28
27
32
33
36
35
37
38
[01D]（2）

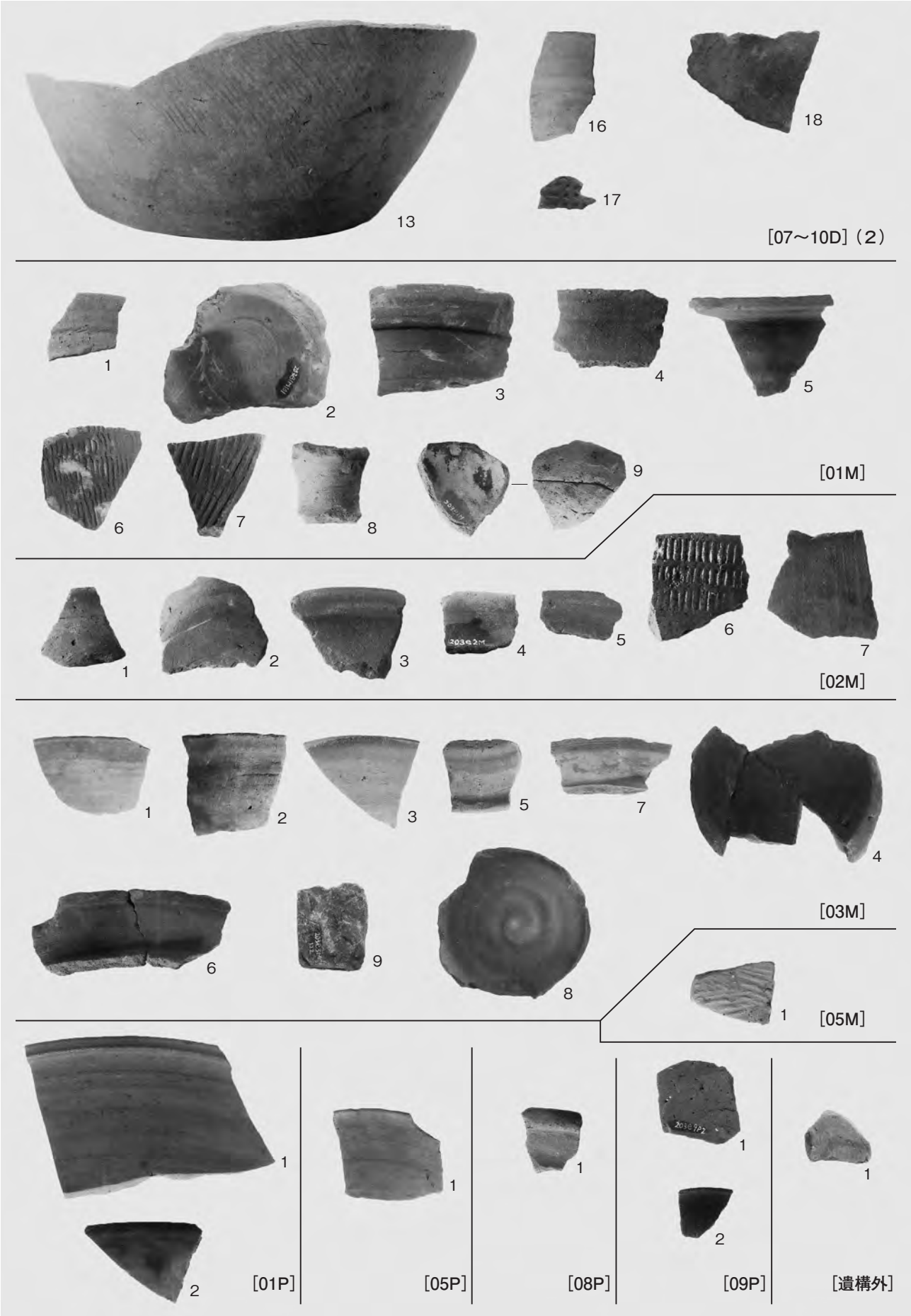
図版７遺物［02D・03D］


1
4
5
3
8
11
9
10
6
7
[04D]


1
2
6
4
5
9
10
11
8
7
12
[05D]

図版９遺物［06D・07～10D（１）］




13
16
17
18
[07～10D]（2）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
[01M]
1
2
3
4
5
6
7
[02M]
1
2
3
5
7
4
6
9
8
[03M]
1
[05M]
1
2
[01P]
1
[05P]
1
[08P]
1
2
[09P]
1
[遺構外]

第１章第３節　周辺の遺跡　参考文献

２関連　1987　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　埋蔵文化財発掘調査報告集」
2002　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成13年度」
３関連　2011　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　西山遺跡　－埋蔵文化財発掘調査報告書－」
４．５．６．８関連　1975　財団法人千葉県都市公社「八千代市村上遺跡群」
７関連　1972　名主山遺跡発掘調査団「名主山遺跡」
10関連　1995　八千代市教育委員会「平成６年度八千代市埋蔵文化財調査年報」
11関連　1999　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　正覚院館跡　－埋蔵文化財発掘調査報告書－」
1996　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告　平成７年度」
2006　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成17年度」
2009　八千代市「八千代市の歴史　通史編　上」ｐ376～384
12関連　2015　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　境作遺跡　殿内遺跡　－大型店舗建設工事区域内埋蔵文化財発掘調査報告書－」
13．14．15関連　2003　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　浅間内遺跡発掘調査報告書」
2007　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　浅間内遺跡発掘調査報告書」
2007　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡　八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」
2009　八千代市「八千代市の歴史　通史編　上」ｐ160～161

第１章第２図　調査地点　参考文献

ａ地点　2015　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　境作遺跡　殿内遺跡　－大型店舗建設工事区域内埋蔵文化財発掘調査報告書－」
ｂ地点　2009　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　殿内遺跡ｂ地点　－公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－」
ｃ地点　2007　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成18年度」
ｄ地点　2016　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成27年度」

第２章第２節　参考文献

1994　加納実「加曽利EⅢ・Ⅳ式土器の系統分析－配列・編年の前提作業として－」『貝塚博物館紀要第21号』千葉市立貝塚博物館

千葉県八千代市
殿内遺跡ｅ地点
― 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

発　行　日	平成30年３月15日
編　　集	八千代市教育委員会　教育総務課
	〒276－0045　八千代市大和田138－２
	TEL　047－483－1151（代表）
発　　行	株式会社レスパイトサービス
印　　刷	金子印刷企画